TAKASAGO
高砂香料工業株式会社

高砂香料工業株式会社

社会・環境報告書 2020

技術立脚の原点

楠香が欧州での研究を綴った"甲斐荘ノート(中・右)と南仏グラースでの留学時の様子(左写真)

この古めかしいノートは、高砂香料工業の創業者、甲斐荘楠香(かいのしょう・ただか)が欧州で香料について学んでいた当時に使っていたものです。

1910年、京都帝国大学助教授の職にあった楠香は、香料工業の知識を身につけたいという一心で欧州に渡ります。留学先も定かではないままの、私費での単独渡航でした。幸い香料の本場南仏グラースの香料会社で研修を受けられることになった楠香は、天然精油の製造法や香気の特徴などをこまかくノートに記していきます。後にジュネーブの香料会社に移り、念願であった合成香料の研究を始め、その過程を丁寧に書きとめています。ジュネーブでは調香の基礎も学び、処方をノートに書き残しました。

いわば、香料会社に必要なすべてが記されたノートだったのです。フランス語やドイツ語が混在するページからは、若き日の楠香の情熱とともに、技術に対する真摯なまなざしが伝わってきます。

後の1920年に楠香が創業する「高砂香料」にとって、技術立脚という企業理念の原点となる、大切なノートです。

1914年に勃発した第一次世界大戦により、欧州から香料の輸入が途絶え、国内での合成香料製造が不可欠になります。石鹸会社に職を得た楠香にとっては、欧州で学んだ合成技術を活かす絶好の機会となりました。ところが、休戦となって輸入が再開されると、国産香料の売れ行きが落ち、楠香の勤める石鹸会社も香料製造を中止します。この時楠香は、日本で初めての合成香料製造を軸とする会社の設立を決意します。香料が暮らしに潤いを与え、社会に役立つとの強い思いからでした。楠香の部下のほとんどが集結し、1920年、技術者ばかりの「高砂香料」がスタートしたのです。その後、オゾン酸化法によるバニリンの製造や不斉合成によるℓ-メントールの生産に世界で初めて成功するなど、会社は大きな発展を遂げてきました。現在ではグローバルに事業を展開する香料会社となりましたが、技術を通して社会に貢献する姿勢は創業から変わりません。香りある豊かな暮らしのために、より良い香料を世界中に送り出していくこと、それが昔も今も、そしてこれからも、変わらぬ私たちの役割です。

創業当時の東京工場(現本社ビル所在地 大田区蒲田)と 創業者 甲斐荘 楠香

2020年2月9日、高砂香料工業は創業100周年を迎えました。

Contents

6 トップメッセージ

10 会社概要・財務ハイライト

12 グローバルネットワーク

14 特集
高砂香料グループが取り組むSDGs

20 Sustainabilityマネージメント

27 社会性報告

53 EHS報告

62 コーポレート・ガバナンス

66 「社会・環境報告書2019」に関する
アンケート結果について

編集方針

高砂香料グループのCSR活動をステークホルダーの皆様に知っていただくことを目的に、2003年度から「環境報告書」の発行を開始し、2012年度からは「社会・環境報告書」として情報公開に努めています。

「社会・環境報告書2020」では、高砂香料グループのSDGsについて、そのさまざまな活動と取り組みを各部門の統括責任者が報告しています。

2019年度のCSR活動のご報告とあわせて、ご理解を深めていただければ幸いです。

■ **報告対象期間**
2019年4月～2020年3月
（一部最新の情報を含む）
■ **報告対象組織**
高砂香料グループ

■ **実績データ集計範囲**
2019年4月～2020年3月
■ **参照したガイドライン**
GRIスタンダード
■ **次回発行時期**
2021年11月を予定

表紙の香炉について

全体を金地に仕立て、螺鈿で文様を表わす。平安後期から鎌倉時代にかけて流行した沃懸地螺鈿の近代版ともいうべき作品で、鶴岡八幡宮に伝わる「籬菊螺鈿蒔絵硯箱」（国宝）を念頭において作られたものであることが明らかである。作者の植松包美（1872~1933）は古典作品を研究し、それに新しい解釈を加えた作風で知られる。本作もその一環として作られたものと考えられている。

植松包美　菊枝鳥螺鈿蒔絵香合　大正から昭和時代　20世紀
出典：高砂コレクション　香りの図鑑

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのために

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、高砂香料グループの活動をより深く理解していただくために、さまざまな媒体による情報発信に努めています。
より詳細な社会・環境活動やデータはウェブサイトでご紹介しています。

社会・環境報告書

CSRにおける活動報告や目標をステークホルダーの皆様におつたえする報告書を毎年発行しています。

Sustainability Report

2020年に発行したサステナビリティレポート（英文）はGRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダードに準拠した報告内容となっています。

ウェブサイト

http://www.takasago.com

事業活動や国内外の最新情報を随時アップロードしています。

会社案内

創業からの歴史や事業展開、また香炉をはじめとする高砂コレクション®について紹介しています。

THE TAKASAGO TIMES

当社発行の技術情報誌です。香りの文化と香料や周辺技術に関する幅広い情報を提供しています。

安全・安心な製品を通じて、豊かな生活づくりに貢献します。

当社の主要な事業は、フレーバー、フレグランス、
アロマイングリディエンツ、ファインケミカルの4部門で構成されております。
高品質かつ信頼いただける製品・サービスを通して、
人や社会、地域環境との調和を図りつつ、
お客様、お取引先様、従業員、地域・社会、株主・投資家等、
ステークホルダーの豊かな暮らしに
貢献し続けてまいります。

Flavors

We design to taste…

Fragrances

Creativity, inspired by nature
and powered by science

Aroma Ingredients

Endless Possibility

Fine Chemicals

Green Chemistry

高砂香料工業株式会社
代表取締役社長　榊村　聡

Top Message

変化を乗り越えた100年の歩みを受け継ぎ次の100年に向けて飛躍します。

Q. 2019年度を振り返り、営業状況の総括をお聞かせください。

2019年度、フレーバー部門においてはシンガポール子会社の飲料用フレーバーや日本国内のコーヒー関連製品が好調に推移しました。また、フレグランス部門においては米国子会社が芳香剤向けに販売を伸ばしたことなどから、売上げは前期比1.3%増となりました。しかしながら利益面では、事業全般で原料価格の高騰の影響を受け、期初の予想値は上回ったものの、営業利益は同54.4%減となり、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益も減益となりました。

当社は、海外の売上げが全体の5割以上を占めています。2019年度は成長著しいアジアでの増収が寄与しました。また利益面では日本事業が苦戦する中、米州が黒字転換を果たした他、欧州・アジアも貢献し、海外での成長はさらに進んだと言えます。2020年度は、原料価格の状況が落ち着きつつあることから、売上高は当期比0.7%増とほぼ横ばいを見込み、利益は増益を予想しています。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界経済全体の成長が大きく落ち込むと見られており、当社事業においても一部のカテゴリーには影響が及ぶ可能性がありますが、主力の食品香料や日用品向け香料は、生活必需品にかかわる製品として堅調を維持できるものと考えています。

Q. 最終年度を迎えた中期経営計画についてご説明願います。

当社は、2009年より長期ビジョン「TAKASAGO GLOBAL PLAN」を推進し、創業100周年に向けて世界トップクラスの香料会社を目指す取り組みを進めてきました。2020年度は、その長期ビジョンを締め括る3ヵ年中期経営計画「One-T」の最終年度となります。

本計画は、基本方針として「顧客満足度向上」「事業成長戦略推進」「技術革新」「利益体質改善」「人材開発」の5項目を掲げ、これら5つの基本方針の中心に「コーポレート」という概念を据えて、グローバル企業として必要な基準、仕組みを整備し、ガバナンスの強化、グローバル機能の向上に努めていく、という革新的な価値の創出に取り組むものです。

これまでの2年間を通じて、バニラ事業の拡大や米国CIT社を介した天然香料素材の拡充、インドネシア工場の稼働による東南アジア・南アジア展開の強化など「事業成長戦略推進」を着実に行ってきました。また、「技術革新」についても、バイオ技術を活用した新素材の開発、ファインケミカル事業における連続フロー技術を深化させてきました。それらの結果、売上高は海外を中心に伸長しました。一方で、「利益体質改善」の取り組みについては、本計画の策定時には想定していなかった世界的な原料逼迫および価格高騰が生じたこともあり、調達・製造・販売の各分野で対応を進めてはいるものの苦戦を強いられています。このような状況を踏まえ、本計画の最終年度の目標である「売上高1,700億円」「営業利益率5.2%」の達成は、難しい

と予想しています。

コーポレートという観点では、One-Takasagoに向けていろいろと施策を進めております。海外を中心に進めているグローバルSAP プロジェクトもその一つです。今後数年かけて海外主要拠点の基幹系システムを統合してまいります。このプロジェクトを通して、業務フローを高砂ベストプラクティスという形で統一していきます。ガバナンスの強化においては人権ポリシーを定め、国内外のすべての事業所で人権デューデリジェンスを実施しました。結果として、人権にかかわる侵害が行われていないことを確認しています。また、このプロセスを通じて、企業活動における脆弱性の抽出も行い、ITセキュリティ等の改善につなげております。

Q. One-Tではサステナビリティ推進強化を掲げられています。ESGの観点からお考えをお聞かせください。

高砂香料グループでは、「社会の一員としての責任を果たす」「非財務分野における企業価値向上」の視点に立ち、EはEHS（環境、健康・衛生、安全）、Sは社会面、Gはガバナンスとして、取り組みを強化しております。

環境問題（気候変動）への対応としましては、高砂香料グループの指針として2020年4月にTCFD提言に沿って「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について情報を開示しました。指標と目標についてはより具体的に検討していくことを踏まえ、SBTiの基準に沿って設定していきたいと考えています。戦略においては、グリーンケミストリーが中心となってきますが、バイオ技術を活用した新素材の開発や連続フロープロセスを用いた合成などを通じ、新たなビジネスの機会を創出していきたいと考えています。原料調達においてもグリーン調達を実践しています。当社の合成メントールはリニューアブル原料を使用しており、今般USDA Certified Biobased Productとして認められました。安全操業もサステナブルな経営には必要不可欠です。2013年の平塚工場での火災事故以降、安全管理に力を入れてまいりました。現在は、ISO45001認証取得に向けた準備を進めています。日々の着実な安全活動をベースに、グループ全社の仕組みの統一を図ってまいります。

社会面におきましては、各ステークホルダーとのエンゲージメント強化が重要です。従業員とは、ワークライフバランスを考え、これからも適切かつ働き甲斐のある職場環境を整えていきたいと思います。また、サプライチェーンでは、原料調達だけでなく、ITベンダー、物流パートナーなども含め、ステークホルダーと価値観を共有し責任ある調達に努めてまいります。

ガバナンスにおいては、前述したように人権デューデリジェンスを継続し、人権侵害の防止・低減に努めるとともに、業務プロセスにおける脆弱性についても改善をしていきます。

ESGにおける課題を通して、引き続きサステナブルな経営に取り組んでまいります。

Q. 次の100年に向けた想いをお聞かせください。

甲斐荘楠香が会社を創業した1920年は、第一次世界大戦後の政治的・経済的混乱が続き、恐慌が迫る厳しい時代でした。100年の時を経て、今は新型コロナウイルス感染症という災厄が世界を襲い、私たちはかの時代に匹敵する厳しさに見舞われています。

人々の働き方や余暇の過ごし方などは、今後数年のうちに大きく変化し、産業界における製品開発のプロセスや手法も様変わりしていくでしょう。しかし、社会がどのように変化しても、人々の日常生活に彩りや喜びを添え、広く社会の豊かさを支えていくという香料の果たすべき役割に変わりはありません。高砂香料工業は、香料による社会価値を実現するために、経営理念「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を守り続けてまいります。

同時に大きく変化していく社会の流れに、臨機応変に対応し、高い技術力を維持・向上させながら、それを可能とする利益の確保に一層注力していく方針です。

高砂香料グループは現在、約3,500名の従業員を擁しています。そのうち海外の従業員数は、全体の6割近くを占めるまでになりました。国籍を超えて多様な人材が活躍し、全員が一つとなって成長する会社を目指すべく、私たちは新たなビジョンの共有を必要としています。今後その策定を進め、20年後の2040年における「ありたい姿」を示した「VISION 2040」として発表する予定です。

Q. 最後に、ポストOne-Tに向けて一言お願いします。

2021年度から始動する次期中期経営計画では、コロナウイルス感染再拡大の懸念など不安定な状況が続いていく中、消費動向の変化、原料状況など外部環境の悪化局面においても持続的に利益を生み出せる企業体質づくりが継続テーマの一つになると考えています。

コーポレートマークのスクエアTには、Technology、Teamworkを通して、Trust（顧客の信頼）を得る、という思いが込められています。その高砂香料グループの不変的な思いを心に刻み、常にお客様の視点に立ち、営業力、研究・開発力の強化や徹底した品質管理、また迅速かつ柔軟な対応等グループ内のサプライチェーンのさらなる改善を図り、顧客満足度の向上に努めていきたいと思います。

会社概要・財務ハイライト

2020年2月9日、高砂香料グループは創業100周年を迎えました。「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を念頭に、創業以来培ってきた技術力を活かし、グループ一体となって「世界トップクラスの香料会社」を目指してまいりました。これからもお客様に良質な香料を安定的に供給する責任を果たし、香りを通して、世界の人々の心と体の健康に貢献してまいります。

会社概要

会社名	高砂香料工業株式会社
本社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号
設立	1920(大正9)年2月9日
資本金	92億円
従業員数	3,572名

財務ハイライト(億円)

日本
売上高……689

米州
売上高……327

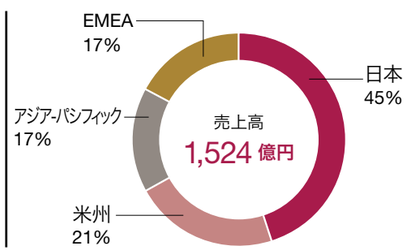
アジア-パシフィック※
売上高……255

EMEA※
売上高……253

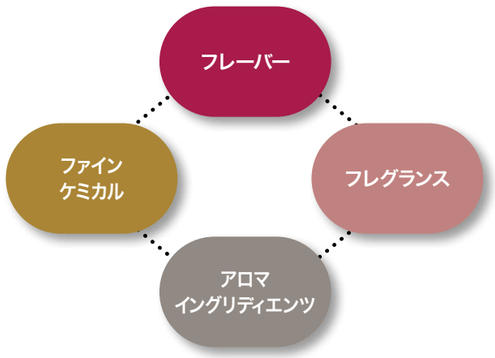
※EMEA：ヨーロッパ、中東およびアフリカ
(Europe, the Middle East, and Africa)

※アジア-パシフィック：アジア太平洋地域
(Asia Pacific)

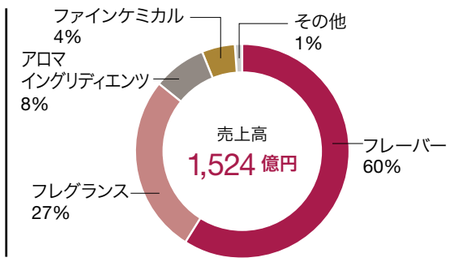
2019年度 地域別売上高



4つの事業



2019年度 事業別売上高



売上高

2017	1,415
2018	1,505
2019	1,524

営業利益

2017	63
2018	58
2019	26

経常利益

2017	67
2018	67
2019	28

当期純利益

2017	70
2018	47
2019	34

自己資本当期純利益率(ROE)%

2017	7.7
2018	4.9
2019	3.6

総資産経常利益率(ROA)%

2017	3.7
2018	3.6
2019	1.5

自己資本比率%

2017	51.0
2018	51.5
2019	51.1

設備投資額

2017	63
2018	45
2019	78

減価償却費

2017	57
2018	61
2019	64

売上高研究開発費率%

2017	8.6
2018	8.1
2019	7.9

グローバルネットワーク

高砂香料グループは、世界市場を開拓し現在世界28の国と地域に事業拠点を設けています。2019年11月4日、インドネシアのCikarangにて新工場が稼働を開始いたしました。東南、南アジア地域においてシンガポール、インドと合わせて３極生産体制となり、より一層充実した、かつ迅速な製品供給、サービスの提供が可能となります。
香料に対する嗜好は文化や風土、習慣によって多岐にわたります。今後とも、グローバル化を進め、研究・生産・販売体制の強化によりお客様のニーズにきめ細かくお応えしてまいります。

Office	Headquarters / Sales Office / Representative Office
Laboratory	Flavors / Fragrances / R&D
Factory	Flavors / Fragrances / Aroma Ingredients / Fine Chemicals / Food / Natural Resources

Zülpich / Germany

Tokyo / Japan

Rockleigh / U.S.A.

St.Ouen / France

Paris / France
St.Ouen / France
Moscow / Russia
Ascot / U.K.
Zülpich / Germany
Milano / Italy
Barcelona / Spain
Istanbul / Turkey
Murcia / Spain
Agadir / Morocco
Seoul / Korea
Shanghai / China
Guangzhou / China
Lahore / Pakistan
New Delhi / India
Dubai / UAE
Mumbai / India
Bangalore / India
Chennai / India
Hongkong / China
Xiamen / China
Taipei / Taiwan
Manila / Philippines
Yangon / Myanmar
Bangkok / Thailand
Ho Chi Minh City / Vietnam
Selangor / Malaysia
Singapore / Singapore
Purwokerto / Indonesia
Tangerang / Indonesia
Cikarang / Indonesia
Antananarivo / Madagascar
Midrand / South Africa
Sydney / Australia

Japan
Tokyo
Osaka
Nagoya
Fukuoka
Hiratsuka
Iwata
Kashima
Mihara

Crystal Lake / U.S.A.
New York / U.S.A.
Rockleigh
Harriman
Teterboro
Rockingham / U.S.A.
Bartow / U.S.A.
Mexico City / Mexico
Vinhedo / Brazil

Murcia / Spain

Cikarang / Indonesia

Singapore / Singapore

Shanghai / China

Mexico City / Mexico

Vinhedo / Brazil

特 集

高砂香料グループが取り組む SDGs

〈 持続可能な開発目標 〉

私たちの事業活動は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）と
さまざまな形で結びついています。
例えば、「CO_2排出削減」では全社的な省エネ活動、
「グリーンケミストリー」の推進では製造プロセスの革新があります。
高砂香料グループでは、研究開発や調達・生産・物流のサプライチェーンから働き方まで
領域を問わずSDGsで設定されたテーマや目標を重点課題と位置づけ、
グローバルな体制で取り組んでいます。
今回は各部門の統括責任者が、それぞれの分野における
活動の進捗や課題などについてご報告します。

（左から）
隈元 浩康（執行役員　生産本部長、磐田工場長）
山形 達哉（取締役　常務執行役員　コーポレート本部長 兼 EHS Executive）
谷中 史弘（取締役　常務執行役員　研究開発本部長 兼 ファインケミカル事業本部担当）
水野 直樹（取締役　常務執行役員　調達本部長 兼 サプライチェーン本部長 兼 生産本部担当）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称で、2015年の国連サミットで採択され、加盟193カ国が2030年のゴールを目指して掲げた国際目標です。当社は2017年に国連グローバル・コンパクトに署名するとともに、SDGsの17の目標・169のターゲットについて、事業活動を通して貢献できることを精査し、地球規模の課題解決に取り組んでいます。

高砂とSDGs　https://www.takasago.com/ja/sustainability/sdgs.html

CSR　一つひとつの課題に対する着実な取り組みでCSR推進強化を目指す

取締役 常務執行役員
コーポレート本部長 兼 EHS Executive
山形 達哉

● EHSと関連するSDGs目標

※1：TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）は金融安定理事会（FSB）が2017年に設置。ESG投融資を行う機関投資家・金融機関にとって、企業が気候変動のリスク・機会を認識し経営戦略に織り込むことを重視し、その開示を推奨している。

CO_2排出量削減（原単位）
32.6%減
対2010年比

● 人権と結びつく目標

人権デューデリジェンス実施拠点・オフィス
100%
（2019年度）

高砂香料グループのCSR活動は、環境、健康・衛生、安全の他、基本的人権の尊重やリスク管理など幅広いテーマが設定されています。推進体制と特に進捗している取り組みは何ですか？

山形　2017年にCSR推進会議（P22参照）を発足させグローバルでコミュニケーションを図りながらCSR活動をグループ全体で強化してきています。また、現中期経営計画「One-T」（2018～2020年）においてはCSR推進強化の3か年と位置づけ、気候変動問題、人権の尊重など地球規模の社会的課題にも重点を置いて取り組んでいます。

気候変動問題ですが、グローバル企業に求められるTCFD[※1]の4つの推奨項目（ガバナンス、リスクと機会、戦略、指標と目標）に沿って高砂香料グループの気候変動に対する活動指針を2020年4月に開示しました。その中で、目標設定においてはSBTの基準に沿うように現在準備を進めております。いかにCO_2の排出削減を実行していくかは今後の課題ですが、2019年環境省主催のサプライチェーン排出量算定支援を受け、スコープ3（サプライチェーン）における区分ごとの計算ができるようになり現状分析にも着手しました。

当社グループでは従来よりCO_2排出量削減を重要な課題と位置づけており、2009年から続けているEHS100プランでも、環境に関する目標の一つとして、水使用量の削減、廃棄物の削減とともに取り組んできたテーマとなっています。継続的な省エネ活動に加え、CO_2排出係数の低いエネルギーや再エネ由来電力へ切り替えを進めた結果、原単位で2019年度に2010年度比32.6%削減を達成いたしました。より活動を推進すべく目標を上積みして2020年度は「35%削減」にチャレンジしています。

マテリアリティの項目で「人権」を特定されていますが、高砂香料グループにおける人権に関する取り組みを教えてください。

山形　当社グループでは、2019年に「高砂香料人権ポリシー」を策定しており、その具現化プロセスとして幅広い領域を包含する日本弁護士連合会のガイダンスを参考に人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、国内外の全事業所で人権侵害や意図しない加担のないことを確認しました。

この取り組みを通じて、全部門にて法令遵守を再点検するプロセスの構築、またITセキュリティー上の脆弱性などを可視化し改善に努めました。今後も、これを続けていくことでグローバル企業としてさまざまな面での責任を果たしていきたいと思います。

高砂香料グループが取り組むSDGs

研究開発　酵素やバイオ技術による天然原料の代替、環境負荷の少ない製造プロセス開発に注力

取締役 常務執行役員
研究開発本部長、
ファインケミカル事業本部担当
谷中 史弘

● 研究開発に関連するSDGs目標

ゼロエミ・チャレンジ（脱炭素社会の実現をイノベーションで切り拓く）

当社は、経済産業省が主催する「ゼロエミ・チャレンジ企業（脱炭素化社会の実現に向けてイノベーションの取組みに挑戦する企業）」の一社として認定されTCFDサミット2020の場において公表されました。

当社の研究開発では、中期経営計画One-Tにおいて、「SDGsとGSC（グリーンサステナブルケミストリー）を考慮した環境に優しい研究開発」を目指しております。本年100周年を迎え、その先の100年を見据えて新たに「自然との共生（Symbiosis）」を掲げて、より強力に脱炭素社会の実現に対する研究開発を推進してまいります。

ZERO EMISSIONS CHALLENGE

SDGs目標の中で、特に重視している項目と最近の成果についてお聞かせください。

谷中　当社の研究開発部門は、基礎研究や製品開発だけでなく、香料の原料となる天然資源の持続可能性や製造プロセスにおける環境負荷の低減にも深くかかわることから、「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」「13.気候変動に具体的な対策を」「15.陸の豊かさも守ろう」などへの貢献が重要です。

そうした中で、研究開発本部では「グリーンケミストリー」を念頭に製造プロセスの革新にも注力しています。持続可能な製造プロセスの実現に向け、2017年に「プロセス開発研究所」を設置し、コンパクトで効率性の高い連続フロー技術をはじめ、より安全で環境負荷の少ない製造工程を探求しています。

素材開発における最近の成果としては、再生可能原料を積極的に活用し、Sustainable Scent®シリーズなど環境負荷の少ないアロマイングリディエンツ製品を商品化。これには独自の不斉合成技術や触媒技術が活かされています。また、バイオ技術を取り入れ、酵素や微生物によるナチュラル香料素材の開発にも注力し、2019年に新たなナチュラル香料素材の製造を開始しました。

生産量が減少し安定入手が困難な天然原料については、天然原料の中で貢献度の高い香気成分を自社で探索・素材化するなど代替化も一部で始めています。

グリーンケミストリーに寄与する技術として「環境負荷を削減する触媒」や「連続フロー技術の応用拡大」が注目されています。

谷中　触媒では、2019年に従来の還元剤を用いる方法から廃棄物の少ない触媒的水素化反応に置き換える技術を開発しています。連続フロー技術では、適用範囲の拡大を目指し、医薬品中間体に限らず、アロマイングリディエンツへの活用も検討中です。

今後、注力するテーマやターゲットなどを紹介してください。

谷中　研究開発部門では、バイオ技術がグリーンケミストリーを推進するキーテクノロジーと位置づけ、化学合成技術との融合によって環境負荷の少ないモノ作りを加速していきます。例えば、天然原料の成分の中で、香りが弱く香料としては活用できない物質をバイオ技術で良い香りのする有用な香料原料に転換させる研究開発を進めています。

製造プロセス開発では、触媒や連続フロー技術を進化させるとともに、入口から出口まで全製造プロセスにおけるエネルギー効率の向上とCO_2排出削減の技術開発に注力します。

また、香りによるストレス低減、睡眠改善、香りと他の感覚とのクロスモーダル研究など生活の質を高めるヒューマンサイエンスの領域にも力を入れていきます。

調 達　世界標準の「責任ある調達」に向けた仕組みやガイドラインを整備・実践

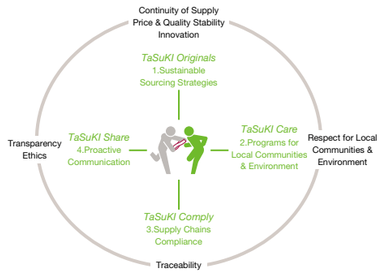
取締役　常務執行役員
調達本部長 兼 サプライチェーン本部長
兼 生産本部担当
水野 直樹

※2：SMETA（Sedex Members Ethical Trade Audit）は、英国で設立されたNPO会員組織のSEDEX（Supplier Ethical Data Exchange）が開発した監査基準。

● 調達に関連するSDGs目標

※3：VUCA（ブーカ）は、米国で生まれたビジネス用語で、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の頭文字を組み合わせた造語。
※4：TaSuKI（たすき：Takasago Global Procurement Sustainability Key initiatives）

TaSuKI, The virtuous circle integration



※5：TACMI（たくみ：Takasago Global Procurement Arts & Crafts Mutual Interaction）

調達活動における取り組みの進捗状況などを教えてください。

水野　調達部門では、ここ5年間で「責任ある調達」に向けた環境整備を加速させました。例えば、持続可能な調達の手引きであるISO20400に準拠した取り組みやサプライヤー選定の指標となる「TAKASOURCE」の開発が代表例です。

2020年1月には「高砂香料責任ある調達ポリシー」が完成しました。これは社会的責任の国際規格ISO26000を参考に、SMETA※2の監査基準に準拠したもので、今後は自己評価問診票を活用してお取引先様への理解・浸透を図り、監査も実施していきます。安全・安心の観点で行ってきた調査書による監査も、倫理項目を加えて継続し、必要に応じて現地調査または第三者に委託して現地監査を行うかを検討中です。

SDGs目標「13.気候変動に具体的な対策を」にかかわってきますが、近年、多発している大規模な自然災害の影響はありますか？

水野　かねてからフロリダでは大型ハリケーンのリスクがあり、グレープフルーツ農園が被害を受け収穫量が激減し、加えて柑橘類の病害の蔓延などがあり、結果として天然オイルの確保が困難になっています。マダガスカルでもサイクロンによる被害で、エキス抽出に必要なバニラビーンズの価格が高騰しました。また、数年前に起きたライン川の水位低下が、水運の滞りや工場用水の不足をもたらし、流域の化学メーカーが製造する香料原料の供給に影響が及びました。

調達本部では、グローバルネットワークを活用し懸命に対応をしましたが、完全なショートは回避できたものの、価格高騰等への影響は避けられませんでした。

注力すべき課題や今後の方針は、いかがですか？

水野　いわゆる「VUCA※3の時代」には、リスクマネージメントによる備えが必須で、リスク回避の仮説をもとにPDCAを短期に回して体制の強靭化を図ることが重要です。同時に、お取引先様あっての調達であることを念頭に、今後も相互のコミュニケーションやリレーションシップを大切に「共生・共栄・共存」に努めます。

調達本部の使命は、事業の成長を支えるバリューチェーンの扇の要となり、「つながる心」を大切に、地球環境・安全衛生・法令・人権・地域文化・公正な取引に配慮した「責任ある調達」を実践することです。それには、天然原料・合成原料を問わず、より上流を視野に入れた取り組みに注力していかねばなりません。そのために、戦略的に持続可能な原料調達を目指すTaSuKI※4や調達部門が開発段階からかかわって開発・製造をサポートするTACMI※5など新たな調達モデルの可能性を広げていきます。同時に、再生可能原料やリサイクル容器の取り組みも継続的に推進します。

生産物流

CO_2排出削減や水資源で年度目標を上積みし 主力工場の製造改革や物流改革に着手

執行役員
生産本部長、磐田工場長
隈元 浩康

● 生産・物流に関連するSDGs目標

SDGs目標で当てはまる項目と主な取り組みを教えてください。

隈元　「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」と「12.つくる責任　つかう責任」、そして「13.気候変動に具体的な対策を」、さらに排出管理においては「14.海の豊かさを守ろう」と「15.陸の豊かさも守ろう」が該当するでしょう。

このうち高砂香料グループの最重要課題である気候変動への対策（CO_2排出削減）では、各工場の地道な省エネ活動が功を奏し、冒頭のCSR分野での報告のとおり、排出削減目標を上回る成果を上げています。また、エネルギーと同様に貴重な水資源についても2018年度に2010年度比20%の削減目標を達成し、2019年度はさらに22.3%削減（実績）し、2020年度目標を「25%削減」としています。

一方で、エネルギー消費量が多い合成プラントが稼働する操業51年目の磐田工場は、主力商品のメントール関連施設の老朽化が顕著で、計画的な再編が不可欠です。特に深冷工程のエネルギー消費量が工場全体の23%を占め、製造プロセスの見直しによる省エネや労働環境の改善を目指し、推進チームが取り組んでいるところです。

また、物流分野では、2020年4月、高砂香料グループの物流指針として、地球環境への配慮や地域社会の保全を掲げる経営基本方針に則り、「コーポレート物流ポリシー」（P.43参照）を定め、取り組みを加速しています。

今後、注力すべき課題や取り組み方針などを教えてください。

隈元　気候変動問題への対応として、サプライチェーンのCO_2排出量のうち、スコープ3のカテゴリー4「輸送・配送（上流）」の削減に取り組んでいます。その一例として、平塚工場の火災を機に広島県に新工場を建設したことでフレーバーの生産拠点が東西に分散し、保管倉庫を兼ねた平塚配送センターへ運ぶ拠点間物流の距離が長くなりました。これを改善するため、一部の製品を工場から納入先への直接出荷に切り替えて効率化を図っています。

また、メントールなどグローバルに供給している製品は、海外拠点での保管を検討しています。主要拠点に計画的なコンテナ輸送で在庫を分散することで、自然災害に対するリスク回避、輸送効率の向上による環境負荷の低減、デリバリースピードの向上などが期待できます。

物流の効率化には他企業とのパートナーシップを活かした改革が、変化の激しい時代に適応するキーワードと考えています。その一環として、築24年の平塚配送センターの機能性を検証し、より効率的な輸・配送を実現するため、アウトソーシングも視野に物流拠点の見直しを進めます。

未来創造

新型コロナウイルスへの対応と 持続可能な成長へのビジョン策定

世界中を脅かしている新型コロナウイルスの影響や対応は、いかがですか。

山形　新型コロナウイルスによるパンデミックによって世界経済が大きく落ち込み、当社も嗜好品向け香料などで影響が及んでいます。その中で、食品香料や石鹸・洗剤などの日用品向け香料は、比較的安定的に推移しています。

水野　一方で調達活動においては、感染拡大防止を図る各国のロックダウンに伴い、サプライヤーの製造・物流が滞り、原材料の供給不足・遅延の懸念が高まりました。そのため、当社では早めに需給予測を補足し、各国の調達担当者や関係者と連携してリスク回避と原材料の安定調達を図っています。

隈元　また、生産部門では、感染予防対策の徹底によりパンデミックの直接的な影響はありませんでした。間接的には、物流の滞りによる海外原料の到着遅れなどがありましたが、一部を除いて十分な在庫を確保し、生産計画の大きな変更もなく現在に至っております。

山形　従業員の安全対策については、国内では公共交通機関で通勤する従業員に時差出勤を導入し、混雑回避・感染防止とともに柔軟な働き方にもつなげています。また、セキュリティー面にも十分に配慮しながら在宅勤務を導入しオンライン会議等もスムーズな運用ができております。4月に日本政府が緊急事態宣言を発令した際、本社では最大90%の従業員を在宅勤務としました。

今後の取り組み、目標についてお聞かせください。

山形　2020年2月にグローバルSAP※6プロジェクトのキックオフを行い、今後数年間にかけて海外主要拠点の基幹系システムを統合する取り組みを進めています。このプロジェクトを通して業務フローが高砂ベストプラクティスを実現できる形で統一され、それにより拠点間の異動や人材活用の柔軟性が高まり、自然災害に対するBCP（事業継続計画）の体制強化も図れます。SDGsの目標では「8.働きがいも 経済成長も」に該当する取り組みです。第一段階として、このシステムを海外事業所から導入し、5年後にはグローバルに運用していく計画です。

こうしたプロジェクトを推進できるのは、グローバルで部門ごとにコーポレートポリシーを定め、ガイドラインを整備して実践に落とし込む手順が高砂香料グループに浸透しているからです。これは「GP-3」や「One-T」を通じて得た成果であり、サステナブル経営を推進していくための必須条件でもあります。

当社グループでは「One-T」で積み上げてきたプロセスを基盤に、「EHS100プラン」の後継となる「サステナビリティ2030」（仮称）の策定をCSR推進会議が中心となって進めています。そこではSDGsを念頭に、環境・社会・経済活動の好バランスを追求しながら、地球規模の課題解決に貢献するための議論を深化させています。

環境問題、人権問題、労働安全、人材開発、社会貢献活動など、私たちが強化すべき取り組みは多種多様ですが、今後も行動計画に沿って一つひとつ丁寧に課題を解決していきたいと考えています。

※6：ドイツのSAP社が開発・提供する基幹系情報システム。企業のあらゆる情報を一元管理することで事業活動の全体最適化を図る。

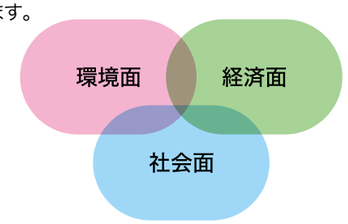
Sustainability マネージメント

高砂香料グループは、「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を企業理念に、コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化などを通じて透明性の高い誠実なサステナビリティ経営を目指しています。

Vision

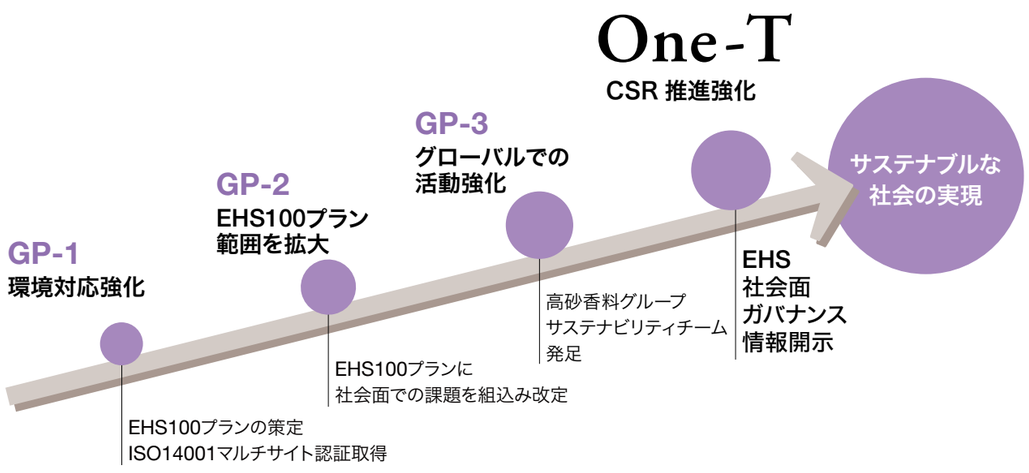
高砂香料グループは、地球環境に配慮し、社会に信頼される企業を目指して、未来を見据えた事業活動の推進を通じてより良い社会づくりに貢献していきます。

また、社会の公器として、企業活動の経済面、環境面、社会面という三つの側面でバランスの取れた経営を推進していきます。具体的には、産業廃棄物の削減やエネルギー効率の見直しなどで環境負荷を低減し、生物由来の原材料の保全に努めるとともに、多様な人材を活用するダイバーシティ・マネージメントなどに積極的に取り組んでいきます。



これまでの歩み

当社は2002年に環境宣言を公表し、事業活動を通じて環境課題への取り組みを続けております。グループCSR中長期計画「EHS100プラン」を2009年から始動させ、活動の目標や達成度の評価を環境報告書の中で報告してきました。GP-2より人権、ダイバーシティなど社会面での取り組みへもスコープを拡大しております。GP-3では、グローバルでのサステナビリティ推進体制を構築し、今、中期経営計画「One-T」ではCSR推進強化を掲げております。



※「EHS100プラン」は、ウェブサイトにて公開しております。是非ご覧ください。
https://www.takasago.com/ja/sustainability/ehs100.html

高砂香料グループの次の100年に向けた取り組み

取締役 常務執行役員 コーポレート本部長 兼 EHS Executive
山形 達哉

高砂香料グループは2020年2月9日に創業100周年を迎えました。
その輝かしい年に、そして2020年は「One-T」最終年度となりますが、
未来に向けてグローバルSAP プロジェクトのキックオフを行い、新しい高砂香料への一歩をスタートさせました。
このプロジェクトでは、今後数年にわたり海外主要拠点の基幹系システムを統合してまいります。
このプロジェクトを通して、業務フローを高砂ベストプラクティスという形で統一していきたいと考えています。
業務フローが同じになれば、拠点間での人材の異動に柔軟性が生まれ、
どの拠点でも仕事ができるようになります。「One-T」とした今中期経営計画の目指すところであり、
当社グループの次の100年に向けた最初の一歩であると考えています。

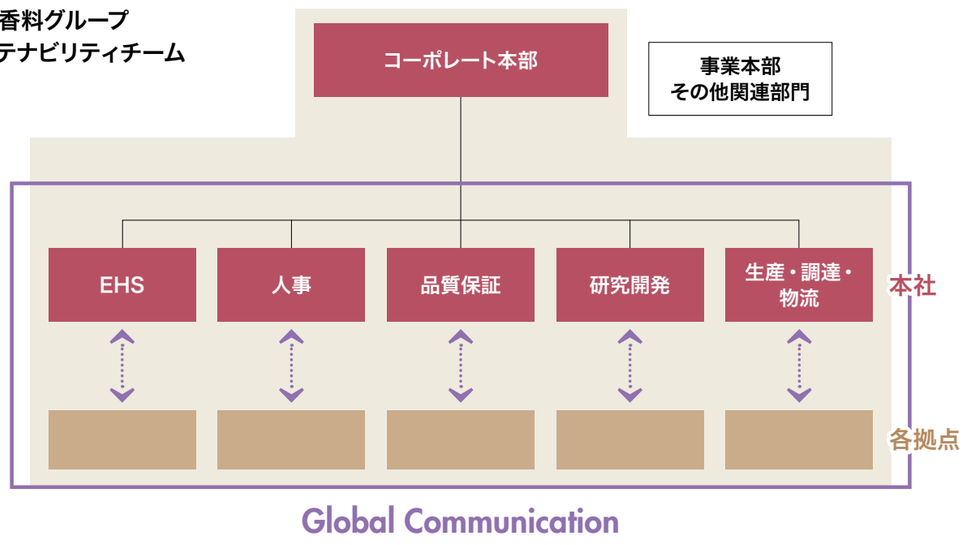
「One-T」最終年度として、2020年は以下のことに注力してまいります。初めに、TCFD提言に沿った情報開示ですが、4月1日にウェブサイト上での公表を行いました。2019年から開示準備を進めて、戦略等について各関連部門、またCSR推進会議で議論を重ね、取締役会での審議承認を経て開示の運びとなりました。このプロセスを通して、高砂香料グループにおける気候変動問題に対する方針を再確認できたと考えています。指標と目標においてはSBTiと連動させます。2019年後半に環境省によるSBTiの基準に沿った目標設定に向けた支援を受けて、この取り組みをスタートさせました。これにより、スコープ3におけるカテゴリごとの排出量の計算も可能となり、現在はグローバルでの算定方式の統一を図っております。同時に、グローバルでの横連携が比較的難しい物流部門においても活動指針を定め、CO_2削減目標と手法について議論を深化させています。

ガバナンス上の大きな取り組みの一つである人権ポリシーについては、2019年に構築が完了しました。その一部となる人権デューデリジェンスを実施して、国内外全社におきまして社内でのヒアリング、また本社のグローバル部門とのヒアリングにおいても、人権侵害が起きていないことを確認しております。私たちは日弁連の発行しているガイダンスに基づき質問票を作成しておりますが、直接的また間接的なあらゆる面において脆弱性を確認し、問題があれば改善する仕組みとしました。ステークホルダーエンゲージメントの強化という観点からも、ステークホルダーごとに、より良く、より堅固な関係に発展できるように努めてまいります。

将来においても安定的かつ持続的な成長ができるよう、2020年度もサステナビリティ活動に全力で取り組んでまいります。

推進体制

グループ全体でビジョン、行動指針を共有し、活動を積極的に推進させるために発足したのが「高砂香料グループ サステナビリティチーム」です。EHS、人事、品質保証、研究開発、生産・調達・物流の5つの機能を主としたチーム編成となっており、それぞれの機能が拠点横断的なグローバルの協力体制を取っています。同チームの発足以来、定期的に本社では「CSR推進会議」を開催し、各部門から集まった代表者間でCSR関連課題の議論やそれぞれの活動計画の進捗共有等を行っています。活動の基盤となっているグループCSR中長期計画「EHS100プラン」は2020年度に最終年度を迎えていますが、後継のCSR中長期計画を立て、引き続きこの活動を推進していくことで、グローバルで社会的な課題に取り組んでいきます。



マテリアリティ

社会からの要請が多種・多様化する中、当社は、マテリアリティ※の特定を行い、特定された項目を中心に取り組みを行うことで、全社的に長期的な視点に立ち、社会課題の解決に向け日々注力しています。

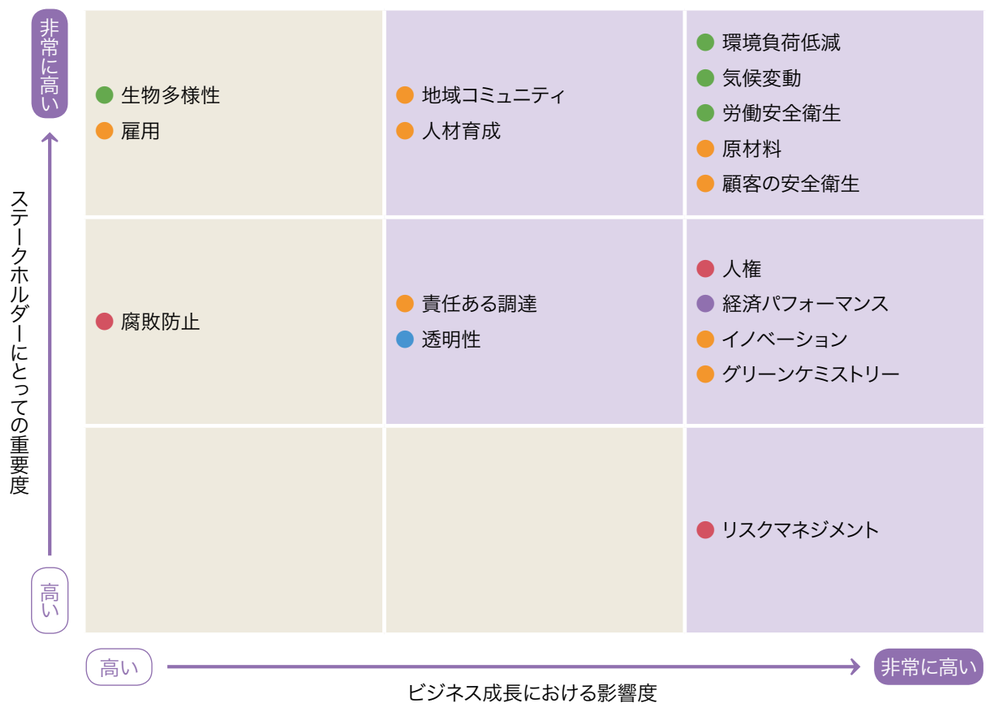
2017年に外部有識者の意見を取り入れながら初めて特定作業を実施し、以下のプロセスに則り、定期的に議論・見直しを行っております。マテリアリティ2019-2020の特定プロセスにおいての主な変更点は「原材料」を追加したことです。

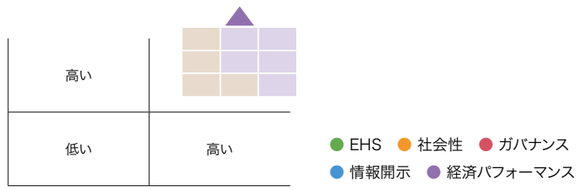
※マテリアリティ：一定の評価・選定プロセスを通じて特定された、「CSRにおける重要項目」のこと。当社が参照する「GRIスタンダード」（報告書に関するグローバルなガイドライン）では、マテリアルである（重要性が高い）と特定した項目について報告を行うこととしている。

マテリアリティ特定のプロセス

国際的なサステナビリティの指標をベースにステークホルダーに対する重要度を評価 ▶ CSR推進会議にて、グループのビジネス成長における影響を検討 ▶ 執行役員会にて議論、取締役会にて議論・承認

マテリアリティ 2019-2020





SDGsとの結びつき

私たちの事業活動は、17の持続可能な開発目標（SDGs）にさまざまな観点で結びついています。
一つひとつの戦略・計画を着実に進めていくことでサステナビリティの強化に努めるとともに、
社会の一員としての責任を果たし長期的な視野で企業価値向上に取り組んでまいります。

	マテリアルな項目	SDGs	戦略／計画
EHS	環境負荷低減	3 6 7 8 9 11 14	●EHS100プラン ●TCFD提言に沿った高砂香料グループとしての戦略／計画
	気候変動	6 7 11 13 15	
	労働安全衛生	3 6 8 10 11	●ISO45001 認証取得
社会面	原材料	12 17	●持続可能な調達プログラム（TaSuKI）
	顧客の安全衛生	3 12 15	●コーポレートQCポリシー
	イノベーション	2 3 9 13 15	●R&D戦略
	グリーンケミストリー	6 7 12 13	
	地域コミュニティ	8 15	●地域社会活動 年次活動計画
	人材育成	5 8	●トレーニングプログラムガイドライン
	責任ある調達	12 17	●コーポレート調達ポリシー
ガバナンス	人権	5 8 10 16 17	●高砂香料グループ人権方針
	経済パフォーマンス	8	●中期経営計画「One-T」
	リスクマネジメント	8	●リスク管理委員会
情報開示	透明性	12 17	●GRIガイドラインに沿ったCSRレポート（日・英）の発行

サステナブルな社会

Our Activity

社会性報告 》

高砂香料グループは従業員・お取引先様・お客様・株主、投資家様・地域社会の5つをステークホルダーと考え、それぞれとのかかわりを高めながら社会に貢献する企業を目指します。

- 従業員
- サプライチェーン
  - … 調達
  - … 生産
  - … 物流
- 研究開発
- 品質保証
- 株主・投資家
- 地域社会

Society

EHS報告 》

気候変動を代表とする環境課題、労働安全衛生に関する取り組みを推進しています。

- 環境
- 労働安全衛生
- 高砂安全の日2020

EHS

ガバナンス 》

公正・適切な企業活動の展開やコーポレート・ガバナンスをより充実させていくことで、体制の継続的な改善を図っています。

- リスク管理
- 危機管理
- コンプライアンス
- 人権に関する取り組み

Governance

社会性報告 》

従業員とのかかわり

【高砂香料グループ企業憲章および行動規範】

高砂香料グループは、技術立脚の精神に則り、社会に貢献するグローバル企業として、持続可能な社会の実現を目指し、人権を尊重し関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって行動するために以下の原則を定めます。

私たちは従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現します。また、一人ひとりの従業員を大切にし、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備します。

- 多様な人材が個々の能力を十分に発揮できる人事処遇制度を構築します。
- 雇用における国籍、性別、信条または社会的身分等による差別を行わず、機会の均等を図ります。
- 働き方の見直しを図り、ワークライフバランスを推進します。
- 従業員の個性を尊重し、従業員のキャリア形成や能力開発を支援します。
- 従業員の安全と健康保持の推進を実現するため、職場環境の整備、維持を行います。

※高砂香料グループ企業憲章および行動規範より抜粋。

人材育成

個人の多様な要望や価値観の充足を実現するため、高砂香料グループでは積極的に人材育成に取り組み、働きがいのある職場づくりを推進しています。

■ 階層別研修

新入社員から経営層までの職位に応じた研修を実施、それぞれの階層に必要な教育制度を充実させることで、人的資源を最大限に活用できる人材の育成に取り組んでいます。

〈新入社員研修〉

新入社員には、社会人としての基本や心構え、高砂香料の歴史や創香などを学ぶ集合研修の後、半年間の工場実習を行っています。実際に香料が製造される現場を体験することで、自社製品への理解を深めることはもちろん、社会人としての責任やコミュニケーションを学び、配属後の部署においてもスムーズな業務遂行を期待しています。

〈新任管理職研修〉

新たに管理職に任用された従業員を対象に、管理職としての役割を認識し、実践的なマネージメントの在り方を学び理解を深めることを目的にしています。

〈上級管理職研修〉

マネージメントの原点を確認し、会社の掲げる方針・目標に対し、部門責任者として期待される役割を再認識し、自分の持ち味を生かした、自分らしいマネージメントの基軸をつくる機会としています。

■ 高砂カレッジ

高砂香料グループを支えていく人材の育成を目的に2009年に開講。若手従業員を対象にした基礎コースに加え、2012年からは専門コースを実施しています。

〈基礎コース〉

若手従業員を対象に実施。お互いの業務を理解し深め合うことを目的に、自らが講師となりプレゼンテーションを経験することで、業務遂行能力や発信力を強化しています。

〈専門コース〉

従業員の知識や技術をさらに高めるプログラムを実施しています。新しい挑戦や提案に対して柔軟に対応できるよう、コミュニケーション力の向上や発想力、論理的思考力などを学びます。単なるスキルの取得ではなく、社内でどう生かすかの視点を重視し、「高砂香料らしさ」を発揮することを目標としています。

■ 通信教育講座

従業員自らの積極的な自己啓発、能力開発への支援を目的として、英語を中心とした語学をはじめ、マネージメントやビジネススキル、資格取得や個人のライフスタイル

にかかわる内容など、それぞれの興味や必要に応じた通信教育講座を設けています。また、講座修了時には受講料の60%～90%を補助することでも受講を推奨しており、2019年度は125名の従業員が受講しました。

■ 自己申告制度

従業員が自分自身の仕事や家庭の状況を会社につたえる自己申告制度を設けています。この制度は、新たに挑戦してみたい仕事や現況の問題点など、上司を介さずに直接人事総務部長宛に親展で申告をする仕組みです。本人の適性や希望を考慮し、適材適所の人員配置を推進しています。

ダイバーシティ

新しい価値を創出し続けるために、あらゆる差別のない雇用を推進、多様な人材が特性や個性を生かし、いきいきと働くことのできる職場環境づくりに取り組んでいます。

■ 労使関係

高砂香料グループは結社の自由および団体交渉の権利を尊重しており、ユニオンショップ制で組織されている高砂香料工業労働組合と企業活動全般に関する課題解決に向けた話し合いを積極的に行っています。

経営に関する情報を共有、議論する労使協議会（年2回）や、中央安全衛生委員会（年1回）、中央福利厚生委員会（年1回）など、労使が協力してさまざまな課題を検討する場を設け、適切な事業運営につなげています。また労使の話し合いによる制度や処遇の改善などを行い、従業員が働きやすい職場づくりに努めています。

秋季労使協議会にて

■ 女性の活躍推進

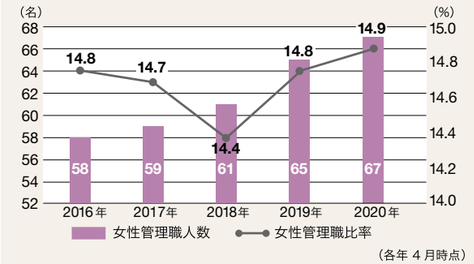
仕事と家庭、育児との両立のための制度の充実を図るとともに、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」に基づいて作成した行動計画に従い、女性管理職の育成・意識改革を目的とした研修を実施、女性管理職の比率増加と活躍を推進しています。

〈女性リーダー育成研修〉

自分自身の強みや課題を理解し、管理職としての役割を果たすための思考および行動を理解し、実践すること、リーダーとしてメンバーを巻き込み、チームを活性化させるためのリーダーシップの発揮手法を学びました。

参加者からは「自分の特徴や傾向がわかり、自分らしいリーダーシップの在り方の参考になった」「女性管理職という立場での悩みや不安が共有でき、また目指していく姿が分かって良かった」等の感想が寄せられました。

● 女性管理職人数と比率（対管理職全員）



■ グローバル人材採用への取り組み

グローバルに活躍できる人材育成の一環として、外国籍人材の採用にも積極的に取り組んでいます。

日本での就業を希望する外国籍の方を対象にした、インターンシップの受け入れも実施しています。

〈外国人採用の推進〉

日本政府主導の語学指導等を行う外国青年招致事業（JET）のプログラム参加者の多くは、プログラム終了後、日本での就職を希望します。当社では積極的に採用活動を行い、2017年から計8名の外国人を採用しました。多様な発想や知識などそれぞれの強みを生かし、新しい価値を生み出すことに期待しています。

■ 定年再雇用制度

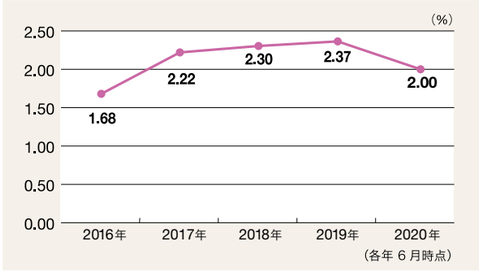
定年を迎えた60歳以上の従業員には、今まで培ってきた経験や能力を発揮できる再雇用制度を設けています。過去3年（2017年9月～2020年3月）の再雇用希望率は78.1%、希望者につきましては100%再雇用を行っています。また、定年前の従業員を対象に「ライフプランセミナー」を開催、定年後の生活設計について支援を行っています。

さらに退職後には、OB会である「高友会」に加入が可能。懇親会の際には社長からのメッセージや役員の参加もあり、高砂香料ファミリーとして定期的な懇親の場が設けられています。

■ 障がい者雇用の促進

障がいのある方の採用活動を積極的に行うとともに、能力や適性を最大限に発揮し活躍できる環境と、定着を図る雇用制度を進めています。引き続き、障がいのある従業員にとって働きやすい職場の充実を通じて社会的責任を遂行していきます。

● 障がい者雇用率



※退職により雇用率減少、現在採用活動中。

ワークライフバランス

仕事と生活の調和を保ちながら充実して働けるように、高砂香料グループではワークライフバランスの実現に取り組んでいます。

■ 育児支援

育児休業や育児時間、看護休暇の制度を整え、従業員が仕事と育児を両立しながら安心して働ける環境づくりを推進しています。

育児休業制度	子どもが満1歳6カ月になるまでの期間、育児休業が取得できます。
育児短時間勤務	3歳に満たない子どもを養育する場合、1日6時間の就業にすることが可能です。
育児時間	子どもが小学校3年生修了時まで、1日1時間を上限とし、30分単位で取得が可能です。
看護休暇制度	小学校入学前の子どもの看護を必要とする場合、1名につき年間6日の休暇が取得できます。

● 育児休業の取得状況

	2019年度育児休業取得者（名）	育児休業取得権利保持者※（名）	割合（%）
男性	9	32	28
女性	25	25	100
合計	34	57	60

※男性：年度内に子どもが生まれた者
女性：年度内に産前産後休業が終了し、育児休業を取得できる者

● 育児休業後の復職率

	2019年度中に育児休業から復職した従業員（名）	復職予定者数（名）	割合（%）
男性	10	10	100
女性	12	12	100
合計	22	22	100

■ 介護支援

家族に対する介護が必要になっても退職することなく、長期にわたって働き続けられるように介護休暇および介護休業制度を設けています。

介護休暇	要介護状態にある家族の介護やその他の世話をする従業員は、対象の家族1名につき年間5日、2名以上を介護する場合は、年間10日を限度として休暇が取得できます。
介護休業	半日単位で年40回までの取得が可能、さらに1カ月単位の取得と合わせて最長12カ月の休業が可能です。

■ 有給休暇制度

年次有給休暇については、従来からの1日単位、半日単位の取得に加え、1時間単位での時間単位有給休暇（年間最大5日分相当）の取得が可能です。時間単位有給休暇では、育児や介護、短時間での私用対応など、休暇を取得しやすい環境の実現に取り組んでいます。

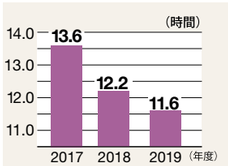
■ リフレッシュ休暇制度

従業員が心身ともにリフレッシュをし、幅広い視野と柔軟な思考を育む機会が得られるよう、勤続10年以降、5年ごとに5日間のリフレッシュ休暇を取得できる制度を設けています。また、勤続15周年、25周年を迎えた社員には感謝の意を込めて、勤続表彰金が支給されます。

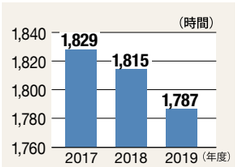
■ ノー残業デーの実施

時間外労働の削減などにより、労働時間の適正化を図るとともに、業務改善による作業効率の向上や終業後の有効な時間活用を推進しています。毎月第2・第3水曜日は「ノー残業デー」とし、継続的に運用しています。

● 時間外労働平均時間数



● 年間総実労働平均時間数



健康維持・増進

従業員の心身の健康管理・増進のため、さまざまな活動を行っています。

■ 体の健康づくり

定期健康診断のほか、特殊健康診断や雇い入れ時の健康診断など、法令に則り適正に実施しています。また、35歳以上の従業員は2年に1度、人間ドックの受診対象となっています。健康診断後、必要な従業員に対しては、産業医や看護師による保健指導を実施しています。

〈長時間労働への対応〉

時間外労働が月50時間を超えた従業員に対しては、産業医による面談の機会を設けています。従業員の健康状況を把握するとともに、産業医の見解に基づいた必要な措置を行っています。

■ 心の健康管理

研修や各施策を通じて、仕事や職場環境などさまざまな不安や悩みを持つ従業員の心の負担を軽減し、労働意欲を維持するとともに、明るい職場づくりを推奨しています。

〈ストレスチェック〉

一人ひとりが行う自身の健康管理として、働きやすい職場環境の形成を目的に実施しています。回答された内容は個人の健康管理のため、産業医・看護師のみが確認し、必要に応じて面談を行っています。

〈研修の実施〉

全従業員を対象とした「セルフケア研修」では、自身の考え方の傾向を知るとともに、生産性向上やメンタルヘルスに効果を発揮している事例を学びます。

管理職を対象にした「ラインケア研修」「ハラスメント防止研修」では、メンタル不調やハラスメントを未然に防止する方法や、部下から相談を受けた場合の適切な対応について学んでいます。

■ 部活動・高砂杯の開催

社内にはさまざまな部活動があり、多くの従業員が参加しています。毎年開催されるスポーツ大会「高砂杯」では、バレーボールやバスケットボール、野球やフットサルを通じて、従業員同士が交流を深める機会にもなっています。

voice

人事総務部 **菅沼 聖子**

人事総務部で、インターンシップ・採用業務を担当しています。インターンシップでは、香りの面白さにスポットを当てたプログラムを実施し、人事総務部の部員以外にも、さまざまな部署の社員に協力してもらい、学生との接点を増やしています。そして、参加学生に香料業界や、当社業務の魅力・人を大切にする社風について理解してもらう工夫をしています。

また、新卒採用では、先輩社員との座談会に力を入れています。現場で働く社員がどのような想いで、どんな仕事をしているか、また当社の雰囲気をどう感じているかを先輩社員自身の言葉で具体的に語ってもらいます。

参加学生からは、「働くイメージが沸いた」「いままで知らない仕事だったけど、話を聞いて、とても興味を持った」「こんな先輩と一緒に仕事がしたい」「先輩社員のようにやりがいを持って、働いてみたい」と、毎回、好評のコメントがあふれています。当社の社風を気に入り、入社してくれた方々は、数年経つと先輩社員となり、インターンシップや、座談会に参加することとなります。このようなサイクルで、人を大切にする良き社風を継承できることは、採用担当として、大変喜ばしい限りです。

新型コロナウイルス感染予防対策に関して

高砂香料グループでは新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、従業員（製品の供給・開発に直接関係する部署を除く）を対象に、業務内容に応じた多様な働き方を実施しています。

公共の交通機関を利用し通勤している従業員を対象に時差通勤を導入、7時から11時の間で始業が可能となりました（本社、研究所）。それに伴い終業時間も15時30分から19時30分の間となり、満員電車での混雑回避・感染防止とともに柔軟な働き方にもつながっています。

また、3月からは在宅勤務を導入しています。在宅勤務に際しては、会社からのパソコン貸与、情報セキュリティを強化することでリモートでの業務遂行、オンラインによる会議や打合せもスムーズに行われています。緊急事態宣言発令時には、本社では派遣社員を含めて最大90%を在宅勤務としました。

2020年7月現在、オフィスへは80%程度の出社率とし、交代で在宅勤務を行うこと、社内ではマスク着用と手指の消毒を徹底、一部座席間には飛沫防止のアクリル板を設け、一定間隔を空けて業務を行っています。会議はできる限りオンラインで行うこと、また不要不急の国内出張を控えることや海外出張を禁止する対策を取っています。

高砂香料グループでは従業員の安全と健康維持を最優先とし、また、お客様に対しては安定した製品の供給が行えるよう、一日も早い新型コロナウイルス感染の収束を願うとともに、引き続き感染予防に努めてまいります。

お取引先様とのかかわり

世界各地の製造拠点に、高品質の原料を適切な時期、適切な価格で供給するため、私たちはグローバル・ソーシング・ネットワークを活かし、調達活動を進めています。コーポレート調達ポリシー、コーポレート調達ガイドライン、サプライヤー行動規範、責任ある調達ポリシーを定めて、世界各国に存在するビジネスパートナーと公正でゆるぎない信頼関係を築き、持続可能な調達を推進しています。

サプライチェーンと調達モデル概要

高砂香料グループは、事業活動において持続可能性を重要と考えています。そこで、調達活動においては各事業で用いる原材料に関し、お客様および社会の期待とニーズにも応えるべく「責任ある調達」を実施しています。

高砂香料グループは、世界中で1,000社以上のサプライヤーから調達した約13,000種類の原材料を製造に使用しています。これら原材料のうち約4,000種類は、植物の果実、樹木、根、葉、花などの天然素材に由来する天然原料です。一方、約9,000種類は高度な化学技術で作られた合成香料で、出発原料には、木材などの天然原料または天然ガス、ナフサが使われます。合成香料は自然には存在しないユニークな香気プロファイルを提供するだけでなく、動物保護の観点から使用を減らす必要があるムスクやアンバーグリスなどの天然香料の代替品として使用することができます。

私たちは高品質な原材料を適正な価格でタイムリーに世界中の施設に供給するため、グローバルネットワークを活用した調達活動を推進しています。持続可能な調達を推進し、世界中のビジネスパートナーと公正かつ信頼できる関係を構築するために、コーポレート調達ポリシー、コーポレート調達ガイドライン、および高砂香料サプライヤー行動規範を制定しています。

■ コーポレート調達ポリシー

高砂香料グループがかかわるあらゆる調達活動において、その責任をより明確にするために、この度コーポレート調達ポリシーを改定しました。

高砂香料グループは、コーポレート調達ポリシーを定め、原材料の調達だけでなく、事業に必要なあらゆる物やサービスの調達にあたり、お取引先様やその協力事業者と価値観を共有し、「責任ある調達」を実現してまいります。

コーポレート調達ポリシー

- **品質・コスト・安定供給の３つの要素を追求します。**
- **法令遵守を徹底し、人権の尊重、取引の公正、環境保全に配慮します。**
- **地域文化を尊重し、お取引先様とのパートナーシップを築きます。**

■ コーポレート調達ガイドライン

コーポレート調達ガイドラインは、コーポレート調達ポリシーを具体化したものです。当ガイドラインには、責任ある調達の概念に合わせて、コンプライアンス、公正取引、腐敗防止、人権、環境保護などの基本的な主題が含まれています。

国内の調達部員をはじめ、高砂香料グループの各拠点で調達業務に携わる担当者が皆、責任ある調達活動を行うべく「コーポレート調達ガイドライン」を定めて教育を行い、会社方針を徹底しています。

コーポレート調達ガイドラインの実施を確実にするために、グローバル調達トレーニングには、当ガイドラインおよび高砂香料の基本的なポリシーに関するセッションが含まれています。

■ 高砂香料サプライヤー行動規範

高砂香料グループは地球環境を重視し、社会から高いレベルの信頼を維持できるよう、環境的社会的責任を重視するお取引先様を、尊重し、優先しています。

お取引先様にもこのような価値観と方針を共有いただくため、下記の「高砂香料サプライヤー行動規範」を定めて、ご理解いただいております。

高砂香料サプライヤー行動規範

高砂香料グループは、地球環境を重視し、社会に信頼される企業を目指して、より良い社会づくりに貢献していきます。
高砂香料グループは、持続可能な社会を考え、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等の社会的責任にも配慮するお取引先を尊重し、優先して調達します。

「高砂香料サプライヤー行動規範」は私たちの考え方を要約した宣言です。より具体的な詳細について「高砂香料責任ある調達ポリシー」が定められています。これにより私たちのビジョン、目的、コミットメントをお取引先様にご理解いただけるよう、さらに努力してまいります。

■ グローバル調達チーム

チームワークは、高砂香料グループの重要な価値の一つです。

昨今のVUCA（変動性、不確実性、複雑性、および曖昧性）な世界の中で、BCP（事業継続計画）の観点から、関連会社間の相互扶助がより重要になってきています。高砂香料では、調達活動を統括するグローバル調達チームを設置しています。チームには現在、11のグローバル生産拠点からの代表が含まれています。高砂香料は世界中の多様な原材料を扱っており、原材料の多くが異なる文化的背景を持っているので、安定した原料供給を確保するための重要な鍵の一つは、原産地での調達拠点の存在です。このため、各国の拠点は、高砂香料グループの国際調達オフィスとしてサプライヤーリレーションシップマネジメントを担当しています。

拠点間での原材料の共通化を含む標準化の概念に基づいて、私たちは原材料管理の包括的最適化のためのあらゆる可能な機会を探求し続けます。グローバルRFQ(見積依頼)は、そのような活動の一例です。

世界中での供給量の制限のため、原材料の入手が難しくなった場合、グローバル調達チームはグループ内で在庫を共有します。

当社のグローバル調達チームは、本社での定期的な年次会議に加えて、コーポレートのイニシアチブのもと、地域、原料カテゴリ、またはビジネスタイプごとにマトリックス構造を介して、さまざまなワークショップ、リージョナル会議、訪問、およびトレーニングを計画します。

voice

Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L. (France)
宮戸　靖忠

私は現在フランス拠点に在籍し、ヨーロッパにおける原材料調達とサステナビリティに関連する課題に取り組んでおります。ヨーロッパは多くの伝統的なフレグランス、フレーバー原材料の産地ですが、多種の貴重な原材料を有するアフリカへのアクセスも容易な地域です。そのような土地を拠点とすることは市況を把握することに有利であり、現地の人たちと直に接することは文化的背景を理解するのにも非常に有意義な機会となります。このような機会によって私たちは敬意に溢れる強固な信頼関係を築くことができると考えております。

voice

Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd. (China)
Winnie 王蒨

国際調達メンバー間でのトレーニングは、短期間ながら、私たちのグローバル全体の状況を理解し、また各拠点が取り組んでいる課題や問題点の理解を深める良い機会ともなりました。直に相対してコミュニケーションすることは素晴らしい経験でしたので、今後の議論や情報交換に向けても、互いの仕事の進め方を向上することができると考えています。

■ グローバルトレーニング

グローバル調達チームのメンバーは、本社でのトレーニングセッションに参加する機会があります。

グローバルトレーニングは、チームがコーポレート中期経営計画、コーポレート調達ポリシー、ガイドラインについて理解を深めることを目的として、年に2回開催され、グループ間のネットワークや対面式のミーティングを通じてチームワークを構築することを目的としています。コロナ禍においても、グローバル調達チーム内で方針や知識

を共有できるよう、オンラインセッションを利用し、トレーニングを継続しています。

■「責任ある調達」

2017年6月、高砂香料グループは「国連グローバル・コンパクト」に署名し、そこで定められた「4分野（人権、労働、環境、腐敗防止）10原則」に従い、その実現に向けた努力を継続しています。そして、各国法規の遵守、人権の尊重、環境保全、公正な事業慣行、地域社会への関与と発展などに注力しながら、できる限り持続可能な方法で調達活動を実行するよう努めています。

2019年末、『高砂香料責任ある調達ポリシー』はグローバルな基準と慣行であるISO26000とSMETA（Sedex Members Ethical Trade Audit）※1に合致していることがEcocert Expert Consulting によって検証されました。さらに、このポリシーはSDGs（持続可能な開発目標）の17のアジェンダを支持しており、私たちのサプライヤー行動規範を具現化しています。このポリシーに則り、私たちは調達活動における「人権、労働、環境、腐敗防止」のリスクや潜在的な影響を調査します。もし何らかの悪影響を及ぼす可能性が確認された場合は、早急に改善へ向けた計画を立て、サプライヤーや他のステークホルダーと協力し対策を講じます。

※1　SMETA：社会・環境に関するベストプラクティスを集約し作られた監査基準。

1）サプライヤーリレーションシップマネジメント

高砂香料グループでは、本社の調達部を中心にグローバル調達チームを活用した国際調達活動を行っています。グローバルな調達活動を通じて、お客様だけでなく、すべてのステークホルダーの皆様に高品質で安心・安全な製品を確実に提供し、貢献していきます。そのため、サプライヤーとの対話、サプライヤーアンケート、Sedex※2 SAQ、責任ある調達アンケート、RFQ（見積依頼）を活用し、以下のようなサプライヤーリレーションシップマネジメントを行っています。

- サプライヤーとの強固で互恵的、かつ透明性の高いパートナーシップの構築
- 高品質な原材料を安定的かつ確実に調達できる体制の維持・強化
- サプライヤーとの対話、RFQによる相互理解と目標の共有化
- 定期的なサプライヤー調査書による「高砂香料サプライヤー行動規範」の徹底（サステナビリティ、基本的人権の尊重、強制労働、児童労働の有無のチェック）

※2　Sedex：倫理的かつ責任ある慣行に関する情報を共有するためのオンラインプラットフォーム。

2）外部イニシアチブとの協働

高砂香料グループは、責任ある調達を追求するために、持続可能で倫理的な調達を推進するイニシアチブに参加しています。私たちは、環境保全に配慮し調達を改善するため、RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）※3とJaSPON（Japan Sustainable Palm Oil Network）※4のメンバーになりました。2019年、パーム油のサプライチェーンの持続可能性を理解するため、マレーシアでのサステナブルパームツアーに参加しました。

またフランス拠点の工場で、フレグランスを持続的に生産するための最初のステップとしてRSPO-SCCS認証（マスバランス）を取得しました。アメリカ拠点のセールス、サプライチェーン、レギュレーション、QAを含むRSPOチームと、フランス拠点のRSPOチームは、2020年中にニューヨークにある工場のRSPO認証を受けるという次の目標に取り組んでいます。

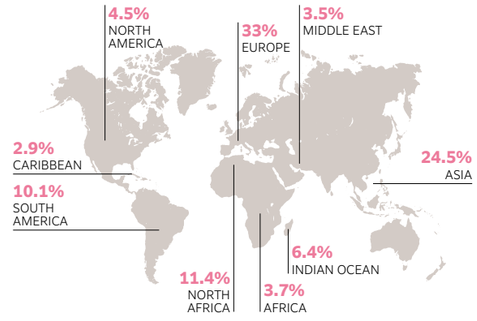
2016年初頭、私たちはABメンバーとしてSedexに加盟し、作業環境、安全衛生、環境管理、および倫理的なビジネス慣行の分野でサプライヤーを評価できるようになりました。サプライチェーンデータをグローバルに共有するための世界最大のコラボレーションプラットフォームと、個別のサプライヤーアンケートを使用して、倫理的なサプライチェーンを確保します。2019年までに、国内外の主要サプライヤー約180社とのリンクがSedexプラットフォーム上で確立されました。新規取引の際、新しいビジネスパートナーがSedexメンバーであるかどうかを確認し、メンバーでない場合はSedex Bメンバーになることを推奨しています。私たちは、持続可能なサプライチェーンを構築するため、優先サプライヤーがSedexに参加することを推進し続けます。

※3　RSPO：パーム油産業をより環境への負荷の少ない持続可能な産業へと転換させようとしている団体。
※4　JaSPON：持続可能なパーム油の調達と消費の促進を図る日本のプラットフォーム。

3）サステナビリティ：調達活動のレベルアップ

責任ある調達を実現するために、私たちは原材料の調達レベルを分析するツールとなるTAKASOURCEを開発しました。私たちの調達活動の持続可能性を評価するためのこのマトリクスは、Ecocert Expert Consultingによって検証されており、環境、経済、社会という持続可能な開発の3つの考えを根本としています。これにより、私たちが特にリスク低減に努めなければならない重要な原材料の特定が可能となります。

TAKASOURCEによって、世界中の500以上の原材料と60のサプライヤーが評価されています。



私たちはより一層の持続可能性を持った調達活動を目指して取り組んでおり、“持続可能である”と認証された供給源を奨励するプログラムをTAKASOURCEを通じて始めています。その理念とは生産者を支持することであり、彼らの製品を購入するという経済活動への参加によって、私たちの目標を共有する人たちを擁護するというものであります。RSPO、Fair for Life、FSCのような認証制度は、経済的な問題ですべてのサプライヤーが必ずしも利用可能なものではありません。私たちはそのようなサプライヤーの持続可能性への取り組みを確認するために幾つかの要素を加味するようにしております。

私たちはパームオイルまたはその派生物を含んだ原材料に対する自然保護の取り組みを支持しています。本社が2017年9月にRSPO会員になったことに続いて、フランスのフレグランス製造拠点はRSPO-SCCS認証（マスバランス）を取得しました。購買、品証、サステナビリティ部門から成るチームを組織し、パームに由来するすべての原材料を特定する重要な工程、つまりはマスバランスモデルの認証品として購買された原材料の重量と、調香に使用された原材料の重量を追跡するという工程を管理しています。2019年の認証取得の後、2020年2月に初となるRSPO-マスバランス認証品のCoAを顧客に発行しました。この経験をもとにして、他国のフレグランス製造拠点もまた2020年～2021年の認証取得に向けて取り組んでおり、森林、生物多様性、地域社会の保護に向けた私たちの持続可能性への活動を示そうとしております。

4) “TaSuKI”(Takasago Global Procurement Sustainability Key Initiatives：たすき)

1. 概況報告

2020年は当社の創業100周年にあたり、私たちにとって特別な年です。

当社創業者 甲斐荘楠香は、日本での起業（1920年2月9日）に先立ち、欧州で香料についてより深く学ぶべく、数年を熱意を持って過ごしました。

私たちは、京都からフランスのグラースへと留学に旅立った彼の足跡に思いをはせて、“From Kyoto to Grasse” と銘打って、TaSuKIプログラム（当社の事業戦略に重要な原料を、持続可能に調達する方策と、その原産地を支援する取り組みの推進）を再構成しました。すなわち、この原材料の調達活動を、さながら日本を出発点としてアジア、東南アジア、中東、アフリカを回り、海を越えてアメリカ大陸にわたり、ヨーロッパ、フランスのグラースへ行きつくという旅になぞらえております。

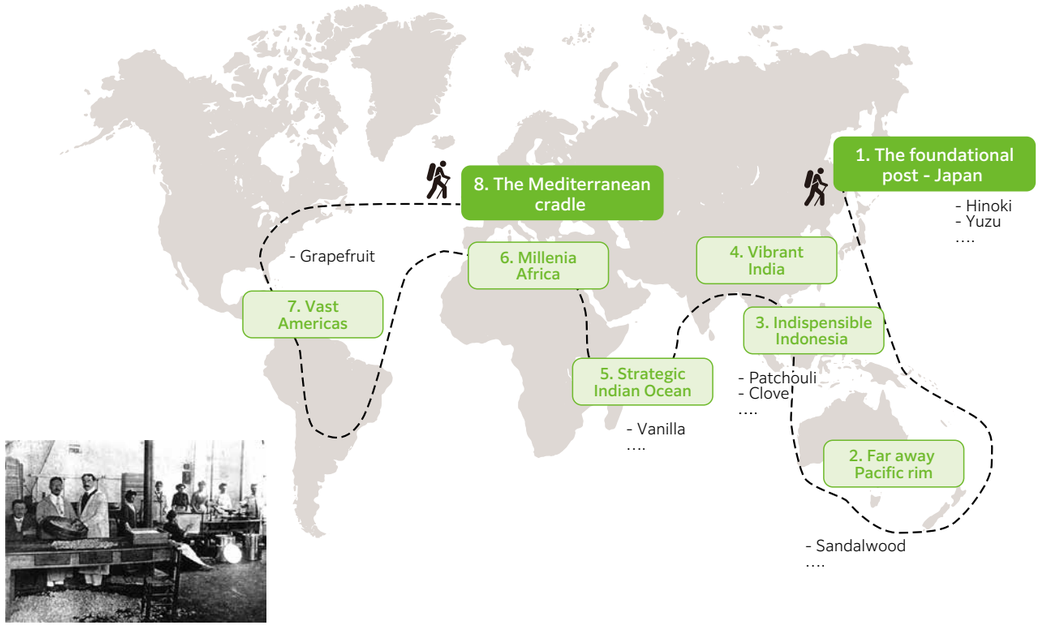
2. Ongoing Projects Update

〈グリーンケミストリーを支える原料調達強化〉

● 持続可能なパインケミカル：原料供給先との関係強化
—“TaSuKI Originals, Care and Comply”

2020年3月、LAWTER B.V.の一部株式取得と、LAWTER社の親会社であるハリマ化成グループ株式会社との合弁契約の合意に至りました。この合意により、高砂香料グループのコアテクノロジーである「グリーンケミストリー」を用いたℓ-メントールの製造を目的とした当社グループでの調達が強化されます。

TaSuKI Originals - From Kyoto to Grasse - Sourcing posts



松（パイン）を出発とする「パインケミカル」は、樹脂、化成品から電子材料などさまざまな用途に活用されています。アロマケミカルでは、松を由来として得られる粗サルフェートテレピン油やガムテレピン油が重要な原料です。しかし、ガムテレピン油の供給に影響を与えるガムロジンの需要は、ここ数十年で低迷しており、ガムテレピン油の不安定な供給と価格の変動の原因となっています。

一方、昨今、消費者がサプライチェーン全体で責任ある調達と透明性により多くの注意を払うようになり、川上統合の価値は高まっています。

森林産業に関連するパインケミカルに関しては、Carbon Disclosure Project（CDP）（CDPフォレストが2013年に開始）やSDG15（「持続可能な森林管理」）などのグローバルなイニシアチブがあり、持続可能な活動のための行動が奨励されています。

LAWTER社では、パルプ・製紙工場から得られる粗サルフェートテレピン油を主な粗原料としているため、ガム相場の変動によるリスクは比較的低く、供給および価格の安定性や、トレーサビリティー情報の開示においても、より優位性があります。

当社グループはパートナーシップを強化することで、原料の長期的な安定調達の基盤確保を目指します。

〈フロリダのグレープフルーツ〉

● 持続可能なグレープフルーツ：植樹
—“TaSuKI Originals, Care and Comply”

高砂香料グループは果実栽培に直接的な出資を行うことに合意し、長期的なグレープフルーツ産業の支援を強化しました。

創業100年で初めて、高砂香料はフロリダ州のグレープフルーツ農園を増やすための野心的な計画に参加しました。

Peace River Citrus Products, Inc.（PRCP社）（シトラス加工業者）および、The Scott Family Companies（シトラス栽培業者）はフロリダ州セントルーシー郡とインディアンリバー郡の1,000エーカーの面積に25万本の新しいグレープフルーツの苗を植えるプロジェクトを立ち上げました。

これはシトラスのカンキツグリーニング病がフロリダのグレープフルーツ農園に被害を及ぼして以降、初めての主要なグレープフルーツ植樹計画です。この革新的な植樹の取り組みを通じて、PRCP社とThe Scott Family Companiesは、新しい苗が成熟する時にはフロリダのグレープフルーツ収穫量を15%増加させることを目指します。

当社グループはこの合意のもとで、生産されたグレープフルーツ精油を100%獲得する権利を得ました。収量の増加は市場変動の影響を抑えることになります。当社グループはグレープフルーツ栽培業者ではありませんが、私たちが新しい植樹の費用を支えることで栽培業務に関わることが重要です。

PRCP社はシトラス栽培者、加工業者、包装業者として垂直統合された会社であり、Bill Beckerによって設立され、本社はフロリダ州のVero Beachにあります。フロリダ州中部に位置する近代的で効率的なシトラス果樹園と加工場で325名の従業員を雇用しています。PRCP社はCoca-Cola North Americaの戦略的サプライヤーかつブランドパートナーであり、オレンジ、グレープフルーツ、レモンジュース、シトラス製品を提供して、世界中のコカコーラのブランドを支えています。また、果肉、エキス、オイルなどのジュースやシトラス類の副産物を、米国および国際市場のプライベートラベルのボトル製造業者、小売業者、フレーバー企業に供給しています。

The Scott Family Companiesは新鮮なグレープフルーツを米国および国際市場で栽培、包装、販売している垂直統合された組織です。この組織を構成する企業には、Scott Family Groves、Scott Citrus Management、Riverfront Packing Company、Scott Marketingがあります。Scottは、有名なインディアンリバーの栽培地域で農業の長い歴史を持つ第3世代のシトラス栽培者です。5名の家族が、農場の管理、生鮮果物の梱包工場、生鮮製品のマーケティングおよび流通会社の日常業務に密接

に関与しています。

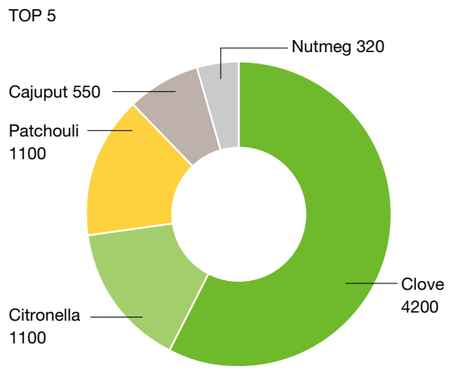
〈インドネシア〉

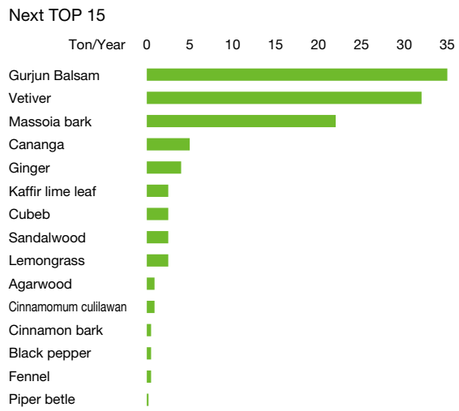
● インドネシアの豊富な精油とスパイスへの活動
– “TaSuKI Originals”

1. 調達可能性の特定

まず、潜在的に調達可能な領域を特定します。私たちは現地でのパチュリオイルの調達と製造についてはすでに数十年の経験がありますが、他のインドネシアの精油やスパイスの調達のための包括的なプログラムにも着手します。最初の段階として、TaSuKIプログラムの名のもとに取り組むべき原材料の優先度を確認します。（下記グラフ参照）

Indonesian essential oils production (ton/year)
Potential sourcing opportunities for Takasago

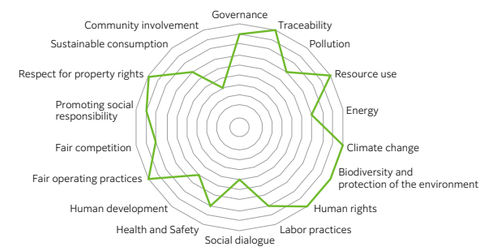




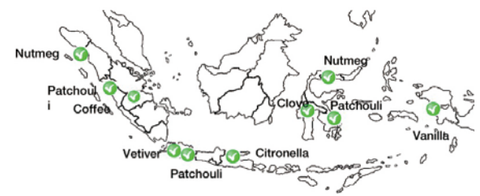
2. 戦略と計画を展開

次に、戦略、計画を策定します。私たちの40年に及ぶ現地での活動と、農業経済と社会経済の傾向への綿密なデューデリジェンスを組み合わせて、天然原材料の調達と製造に関する戦略について、優先順位づけを行い、未来図を描き、それらの計画を実行していきます。

1. Responsible Sourcing due diligence



2. Takasago potential sourcing plan - Indonesia



〈マダガスカル産バニラ〉

● 高砂マダガスカルの活動
– “TaSuKI Originals, Comply”

1. 戦略的な調達

過去に例をみないほどの長期にわたり高騰が続いたバニラビーンズの価格が、2019年後半から2020年初めにかけて、ようやく落ち着きを見せ始めました。それまでの7年間、バニラ市場は、まるで“嵐”のさなかに置かれたようで、全く行方が予想し難い状況にありました。しかし、私たちは、主産地マダガスカルにおいて信頼するパートナーとの取り組みで培った基盤を活かし、この困難な時にも、高品質な原料を確保し製品を供給し続けることができました。レジリエンス、すなわち、苦境をバネにさらに成長する力を備えたことの例証といえます。“良き危機を無駄にするな”ともいわれるように、私たちは近年のすべての事柄を糧として、バニラにまつわるサプライチェーン（社会、文化、経済、科学）に影響する課題を十分に理解し、状況に応じて対処する姿勢へとつなげます。

一つの重要な事例は内陸部における私たちの働きかけです。私たちは6,000もの個別の農家からバニラを調達しています。しかし、それらの農家の中には遠く離れた村へとバニラを運ばなくてはいけない農家も存在します。2020年、私たちは農家の近くに巨大な調達ステーションを開設しました。これにより運搬が容易になり、リスクは減り、支払い業務も円滑になると思われます。この内陸部の調達ステーションは250の農家を助けることになり、同様のサービスを必要としている高度の高い他の地区に対しても、このような施設を追加配備していくことを計画しています。

2. 地域社会および環境への支援

前述した現地内陸部の調達ステーションに加えて、私たちはヨーロッパとマダガスカルの大学と協力した複数年に及ぶ学術研究についても良い成果を得ています。

一つのプログラムがひとたび完了すると、農家に利益をもたらす品質や収率の向上といった優先目標について、発見した事柄は共有されて、スモールホルダーへのトレーニングが組まれることになります。また、そのプログラムは迅速な現地活動にも支えられており、刊行物もすぐに発行されることになります。

環境保護も私たちが重要と考える優先事項の一つです。森林がなくてはバニラは存在することができません。Takasago Madagascar SAとそのパートナーであるRamanandraibe Exportation SAは現地の環境当局であるDREEDによって管理されるタスマニア地域の森林再生プロジェクトに2019年の5月と10月に参加しました。このプロジェクトは2020年に1千万本の植樹を目標としており、Takasago Madagascar SAは2日間で2,600本の植樹に貢献しました。

3. CSRコンプライアンス

2013年にバニラの調達と製造のために私たちがマダガスカルに拠点を構えて以降、調達活動の工程を十分に理解して、必要なベストプラクティスを実践していくためには多くの経験を必要としました。川上統合を進める中で、私たちはスモールホルダーとの関係を深めていき、バニラビーンズのサプライチェーンに存在するリスクとその改良点の特定に努めてきました。内陸部の調達ステーションの設置という活動を通じて、私たちは十分な知識と管理能力を有していると感じており、Fair trade認証（Fair for life）に取り組み始めることを決めました。

生産

グローバル高砂の全生産拠点では、同一の品質「高砂品質」の製品を不適合ゼロで製造することを目標として施策を進めるとともに、持続可能な社会形成に積極的に貢献するためのCSR活動をグローバル統一の活動として品質管理部門、EHS部門と連携し高砂ベストプラクティスを目指しています。

コーポレート生産ポリシー

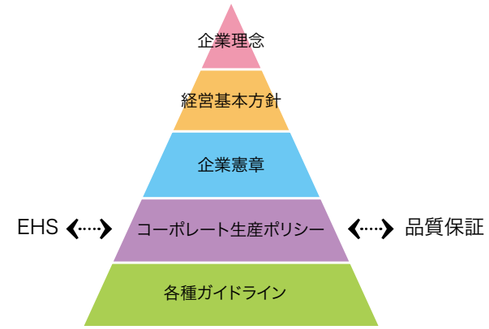
グローバル機能領域において一貫した目的を持って生産活動やCSR活動を実施できるよう、コーポレート生産ポリシーを策定しました。

各拠点の特徴を活かすとともに、グローバルな活動において高砂香料グループとして統一感のある生産活動を推進することで、世界中のお客様に信頼していただける製品供給体制の構築を目指しています。

コーポレート生産ポリシー

私たちは生産活動において以下の事を実践します

- **安全・安心・安定した生産体制を堅持し、お客様のニーズに応える製品づくりに努め、供給責任を果たします。**
- **製造技術の向上と製造管理の徹底による高効率な生産活動を常に追求します。**
- **法令遵守を徹底し、人権の尊重、環境保全に配慮した生産活動を推進します。**



国際会議

定期的に生産部門を含めた国際会議（Global Operations Directors Meeting）を開催し、情報の共有や環境保護に向けた取り組みの実施を進めています。国際会議等を通じてコミュニケーションの強化を図り、グローバルにおいて高砂香料グループとして統一感のある生産活動およびCSR活動の推進につなげています。

環境リスクへの取り組み

当社がグローバルで持続的成長をしていくには、気候変動や異常気象による生産活動への影響を潜在的なリスクとして把握し対応することが求められます。生産部門として環境負荷低減に向けた取り組みと並行し、水リスクへの取り組みを進めており、全製造拠点でWWF（世界自然保護基金）－DEG（ドイツ投資開発会社）の「Water Risk Filter」による水リスク評価を実施しました。

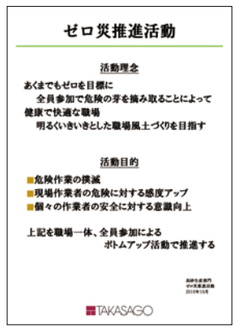
また、近年日本で発生した洪水等の自然災害対応で得た教訓や、その後の対策事例を国際会議（Global Operations Directors Meeting）で共有し、類似災害の対策強化につなげています。

ゼロ災推進活動の展開

ボトムアップによる労働安全衛生の実践活動として、日本国内の工場ではゼロ災推進活動を展開しています。

EHS部門によるトップダウンの活動に加えて、生産部門がボトムアップ活動を推進することで、働く人自らが安全職場を形成していこうというモチベーションを持った安全衛生活動を推進し、ルールだけではカバーしきれない危険にアプローチし、より安全な生産活動を継続することを目指しています。また、当活動を通じて個々の危険に対する感度を上げることに加え、人権尊重の精神に基づいて働く仲間の安全にも配慮できる心を育み、将来の安全衛生活動を推進するリーダーを育成しています。

左／高砂ケミカル　危険予知訓練（KYT）の様子　危険の先取り手法を学び、製造現場で実践する
右／高砂フードプロダクツ　朝のミーティングでの指差唱和の様子　チームの安全への意識を統一している



ゼロ災推進活動

活動理念

あくまでもゼロを目標に
全員参加で危険の芽を摘み取ることによって
健康で快適な職場
明るくいきいきとした職場風土づくりを目指す

活動目的

■危険作業の撲滅
■現場作業者の危険に対する感度アップ
■個々の作業者の安全に対する意識向上

上記を職場一体、全員参加による
ボトムアップ活動で推進する

TAKASAGO

ゼロ災推進活動の活動理念／活動目的が、全工場で掲示されている

工場における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染防止対策の取り組みについて

当社は、お客様が製造する商品に欠かすことのできない原材料（食品用および香粧品用香料や医薬品中間体など）の製造に携わるものとして、供給責任を果たすべく、関連会社を含む各工場でのCOVID-19感染防止対策を進めております。2020年2月下旬、政府より「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が示され、また、それ以降も対策ガイドライン等が示されております。これらを基本とした工場における主な取り組みについてご紹介いたします。これらの取り組みは、従業員の感染防止に加えて職場間の交差感染リスクを低減し、安定した操業を維持することを目的としています。

1）従業員の体調管理について

- 毎日朝の体温計測、体調の報告、記録（37.5℃以上の発熱では出社しない）

2）職場内、工場内の感染防止対策について

- 出社時、休憩時間、食事前後の手洗い、アルコール消毒の励行
- 工場内常時マスク着用（夏季の熱中症対策時は、屋外でのマスク着用を一部緩和）
- 職場間等班分けによる食堂の時差利用、正面着席の禁止
- リモート会議の活用（全体集会中止、出張自粛、懇親会自粛）
- 更衣室・会議室での3密回避（マスク着用と換気）
- 事務所・控室の換気（1～2時間ごと目途）
- 会議室、廊下、食堂へのアルコール消毒液の設置
- 訪問者、外部業者に対する入場ルールの徹底（マスク着用、入場時に体温測定と記録を実施し、37.5℃以上の発熱がある方の入場は原則お断りする）
- 感染者との濃厚接触の疑いがある場合、出社を控えるようにする

3）感染者が確認された場合の対応

- 従業員に新型コロナウイルス感染者が出た場合、管轄保健所の指示に従い、当該職場等の接触箇所の消毒を実施

物流

コーポレート物流ポリシーを策定

高砂香料グループでは、物流の指針として、地球環境への配慮や地域社会の保全を掲げる経営基本方針に則り、「コーポレート物流ポリシー」を定めました。

私たちは物流において以下のことを実践します。

- **安全・安心・安定した製品の輸送および保管体制を堅持し、お客様に対する供給責任を果たします。**
- **物流システムの改善による効率的な物流を常に追求します。**
- **法令遵守を徹底するとともに、人権を尊重し、地球環境にやさしい物流活動を推進します。**

CO_2排出量の削減に向けて

気候変動への取り組みの一環として、SBTi（Science Based Targets Initiative）の基準に沿った目標設定について全社的に準備を進めています。 2019年後半に環境省による同目標設定に向けた支援を受けて、この取り組みをスタートさせました。これによりカテゴリ4「輸送・配送（上流）」における排出量の算出方法も見直しを行い、より実情に沿った数値把握が可能になりました。排出量削減に向け活動指針を定めて、グローバルでの横連携を強化し、各拠点を交えながら議論を開始しています。

リサイクルへの配慮

輸出など一部の出荷ではリサイクルパレットを使用しています。

不要となった梱包資材は、許認可を受けた処分業者により分別収集され、リサイクルされています。

お客様とのかかわり

飽くなき研究開発による高品質の追求、環境に配慮した商品開発の推進、また安全・安心を提供する品質保証体制の構築に努めております。

研究開発

■ 研究開発本部の取り組み・方針

研究開発では、「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という企業理念のもと、3つのイノベーション（コンセプト、プロダクト、プロセス）の有機的かつ機能的な結合、さらにはオープンイノベーションによる外部パートナーとの連携により、独自性ならびに優位性の高い技術や製品を開発し、QOL（Quality of Life）向上に貢献しております。

近年では、気候変動による地球温暖化が顕著になっていますが、それら気候変動を含むSDGsのグローバルな課題解決に向けた取り組みとして、グリーンケミストリーを念頭においた環境にやさしい研究開発も進めています。環境負荷低減に向けて、当社独自の触媒技術や新しいバイオ技術の活用、環境負荷の少ないプロセス設計や廃水への配慮等、グリーンケミストリーにフォーカスし、水の効率的利用やエネルギーおよび温室効果ガス（Greenhouse Gas）の削減に取り組んでいます。また、天然資源の効率的活用に向けて、再生可能原料の探索やその利用、天然香料素材の代替素材開発による使用量削減、未利用資源の活用などにも積極的に取り組んでいます。

今後もこのようなSDGsを意識したイノベーティブな研究開発活動の推進により、さまざまな社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

取締役　常務執行役員
研究開発本部長
谷中 史弘

■ イノベーション

環境にやさしいフレーバー開発
ー天然資源の持続可能な利用に向けて

フレーバー開発では、R&Dの技術を最大限に活用し、常に環境にやさしい製品づくりを目指しています。

近年、天然原料の継続的な入手は難しい状況にありますが、高砂香料グループでは天然原料の安定調達を図るべく原料メーカーとの提携を強化すると同時に、天然原料に頼らない製品開発も追究しています。最先端の分析技術を駆使し天然原料中の高貢献度香気成分を探索、それを高度な合成技術を用いて素材化、熟練した調合技術と組み合わせることで、天然原料香気の再構築を実現しています。

また一方で、高砂香料グループでは当社独自の技術を活用しつつ廃棄物の削減にも力を入れています。取り組みの一つとして、さまざまなアプローチにより製品の安定性を向上させ、当社製品および得意先製品の保証期間の延長を目指しています。天然成分中の重要香気成分の中には、非常に不安定で、ある条件下では他の成分に変化しさらにはそれが劣化臭の原因となることがありますが、同様の香気を有しかつより安定な香気成分を見出すことで、それを活用したより保証期間の長い製品の開発が可能となります。重要な天然香料に不安定な成分が含まれている場合は、工程技術を駆使してその成分を取り除き、好ましい香気を保ったまま長い保証期間を実現します。安定性を左右する製剤化では、より安定に香気成分を保持できる技術開発にも取り組み、このようなさまざまな取り組みは製品の保証期間延長だけでなく在庫管理の改善、不要在庫の削減にも貢献しています。天然原料の加工工程においてどうしても発生してしまう廃棄物に対し、工程最適化や発生した不要物を他の製品に再利用することにより、廃棄物もできる限り削減するよう尽力しています。

このようなさまざまなアプローチを通じ、私たちは常に技術立脚の企業理念に沿って、社会に貢献したいと考えています。

魅力的な和の自然の香り
ーストレス社会を和らげる香りの生理心理効果

フレグランス開発においては、ナチュラルコンセプトは主要なトレンドとなっています。当社は、Aromascope™技術を用いて、日本の植物のヘッドスペース（植物の周囲の空間。植物から放出された香気成分を含む。）を捕集、分析し、自然の香りの再現に取り組んでいます。

2017年には、日本の固有種で、天然木である木曽のヒノキ、青森のヒバ、秋田のスギなどの日本の木に着目したJapan Woodプロジェクトを開始しました。本プロジェクトでは、革新的な香りの再現方法を確立し、“ブルーミング&リラクシング ウッド”（フレッシュで拡散性のある心地良い木の香り）をコンセプトにしたコレクションを作成しました。GC/MSとGC/Olfactometry（GC/O）を用いて、ユニークな香りを形成する主要成分の同定を行い、自然な木の香りの再構築につなげました。これらの香りは、それぞれの木が持つ爽やかさやクリーミィ感などの特徴が忠実に表現されています。

また、木や森林の香りには、ヒーリングやリラクゼーション、疲労回復の促進など生理心理効果があることが知られています。当社では、長年、香りが持つ生理心理効果についての研究を行っておりますが、2019年には、木の香りの再現香料に対して、脳波、心電図、唾液成分などの測定を行いました。その結果、この再現香料にはポジティブな効果があることが確認でき、本物の木の香りと同じように心理的効果を持つ新鮮な木の香りを開発することができました。

現在は、ヨモギ、ミツバ、サンショウなどの日本のハーブにも着目し、ボタニカル・ハーブをコンセプトに日本の伝統的なハーブのコレクションを作成しています。日本のハーブは、世界での知名度はまだ低く、精油は市場にほとんど出回っていません。当社の革新的な分析技術、創香技術、生理心理計測技術の統合によって、ナチュラル感と植物からのヒーリング効果をあわせ持つ香りを提案してまいります。

再生可能原料を活用した
アロマイングリディエンツ開発

2020年に高砂香料グループは100周年を迎えましたが、サステナビリティはまさに高砂香料グループのDNAであり、当社のℓ-メントールは再生可能原料であるミルセンから製造されています。

近年、高砂香料グループでは、さらにより多くの製品に再生可能原料を活用し、天然物に見出された生分解性の良い香料素材であるBiomuguet®やBiocyclamol®を開発、展開しています。また新たに、光学活性な香料素材としてウッディ、アンバー素材であるDextramber®を不斉合成技術を活用したCHIRAROMA®として上市し、現在では、BIOSWITCH®というコンセプトのもと、市販の石油化学由来製品を再生可能原料や植物由来原料に切り替える新たなプロセス開発も精力的に行っています。

レトロネーザルアロマ

ヒトが感知する食べ物の香りには、鼻から直接入ってくるオルソネーザルアロマと、飲食時に口腔内から鼻へ抜けるレトロネーザルアロマがあり、飲食時の美味しさには主にレトロネーザルアロマが寄与すると言われています。

高砂香料グループでは、このレトロネーザルアロマ解析を通じて、ヒトが飲食時に感知している香りにアプローチしたフレーバー開発に取り組み、2017年にPTR-MS（Proton Transfer Reaction-Mass Spectrometer）を用いたリアルタイム香気成分計測結果と、ヒトが口腔内で香りを認知する認知閾値測定結果から飲料飲用後のレトロネーザルアロマを時系列で捉える新規評価技術を確立しました。この技術により、飲料飲用後の風味の持続性強化や、トップインパクト強化など時間軸を考慮した香料の提案が可能となりました。

また近年では、種々のフレッシュなフルーツ喫食時のレトロネーザルアロマ解析を通して、よりみずみずしさを感じられる新規の各種フルーツフレーバー開発にも取り組んでいます。

これらの技術により開発された香料を通じて、消費者の食に対する満足感の向上、ひいては食を通じたQOL向上にも貢献できるものと期待しています。

Aroma Tunes™ －人々のWell-Beingをサポート

香りはヒトにさまざまな影響を与えることが知られており、多くの研究例が報告されています。香りがヒトの心理状態に及ぼす影響は、香りをかいだ時の生体反応を計測することにより評価することが可能です。高砂香料グループはこの分野のパイオニアとして、科学的に確立された生理学的評価方法を用いた香りの生理心理研究に取り組んでおり、これらの知見に基づいて、人々の感情に寄り添うことのできるフレーバーやフレグランス開発に取り組んでいます。

例えば近年では、香りのリラックス効果への期待が高まっていますが、リラックスの科学的な定義は明確にはなっていません。そこで、心理、神経、内分泌、免疫などの生体内の恒常性維持機構の相互作用を研究する精神神経内分泌免疫学に基づき、ストレス時における香りの効果を検証しました。当社では、複数の指標を経時的に同時計測することにより、香りがヒトに与える影響を多面的かつ総合的に評価する評価手法Aroma Tunes™を通して、人々のWell-Beingをサポートすることを目指してまいります。

■ グリーンケミストリー

プロセスイノベーション －グリーンな世界の実現に向けて

高砂香料グループでは、研究開発から製造に至るまで、グリーンケミストリーの12原則を常に念頭において活動を行っており、近年では、フロー技術を最大限に活用した安全でエネルギー効率の良いプロセスを実現しています。当社で実装してきたフロー技術、例えば管式連続装置やCSTR（連続撹拌槽型反応器）などは、その実装過程において、R&Dの中でもプロセス開発を担う部門が重要な役割を果たしました。プロセス開発部門は、フロー技術に限らず、すべての製品実現において重要な機能です。R&Dでは、この機能のさらなる充実を目指し、プロセス開発機能を担う部門を2017年に「プロセス開発研究所」として設立しました。この部門が、ファインケミカル研究部門およびアロマイングリディエンツ研究部門と密接に連携を取りながら業務を進めることで、研究の初期段階から製造プロセスにグリーンケミストリーが強く意識されています。

化学工学の視点、特に安全性やエネルギー削減などは、グリーンケミストリーの重要な要素です。プロセス開発研究所では、安全の確保やエネルギー的に有利なオペレーションの実現につなげるべく、化学工学の専門家により反応工学的なデータの収集が行われ、それらは各基礎研究所にフィードバックされています。これにより、研究開発期間の効率的な削減も可能となっていますが、当該リソースは常にフル稼働に近い状態であるため、今後も見据え、現在、設備と装置の増強を進めております。これら化学工学的な活動の強化は、触媒技術など、化学の深化とも相まって、より一層グリーンな世界の実現に貢献できるものと考えています。

独自開発した触媒の活用 －エネルギー・廃棄物削減に向けて

高砂香料グループでは、グリーンケミストリー実現への取り組みとして、化学量論反応で行われてきた化学変換からエネルギーや廃棄物が削減できる触媒反応への置き換えに挑戦しています。

例えば、医薬品によく使用されるアミン化合物の合成法の一つとして、アミド化合物からの還元反応がありますが、2019年には、従来の化学量論量の還元剤を用いる方法から廃棄物の少ない触媒的水素化反応に置き換える技術を開発しました。この技術により、独自開発したRu-MACHO®誘導体を触媒に用いた水素化反応により、縮環したアミド化合物から対応するアミンが高い収率で得られ、本成果を米国化学会誌（*Org. Lett.* **2019**, *21*(24),9954）や複数の学会で発表いたしました。

今後もさらに幅広い基質に適用可能な技術を提供できるよう引き続き挑戦を続けてまいります。

ホワイトバイオテクノロジー技術を活用した ナチュラルアロマイングリディエンツ開発

高砂香料グループでは、環境負荷低減を目指し、廃棄物の削減や再利用に努めています。ホワイトバイオテクノロジーは、グリーンケミストリーを推進する重要な技術の一つであり、グリーンケミストリーの条件を満たす酵素や微生物による物質変換技術は、SDGsにも貢献する技術であると考えています。さらに、近年のナチュラルフレーバー素材に対する市場ニーズにより、バイオ技術を活用した素材開発は一層重要となっており、フレーバリストの要望を満たした当社のスペシャルティ素材の開発を目指し、EUナチュラルやKosher等の規制を満たすプロセス開発にも注力しています。ナチュラルアロマイングリディエンツの製造は、関連子会社である高砂フードプロダクツや2016年にグループ化された米国Centre Ingredient Technology, Inc.（CIT）などで行われております。CITは高度な製造技術および試作設備を有し、正確な反応制御やモニタリングによる流加培養も可能であり、薄膜蒸留装置に代表される高い精製技術も有しています。CITの主要な製品にはgamma-decalactone、gamma-octalactone、gamma-nonalactone、phenylethyl alcohol、hexanalなどがあり、2019年には新たに高砂香料のスペシャルティ素材の製造も開始されるなど、今後のフレーバー開発への貢献が期待されます。

Column

バイオエコノミーで 炭素循環型社会の実現に挑戦

アロマイングリディエンツ研究所は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」プロジェクトに係る研究開発委託事業に対して「データベース空間からの新規酵素リソースの創出」として、神戸大学を研究代表機関とする共同提案を行い、2020年6月に採択をいただきました。

経済協力開発機構（OECD）によると、世界のバイオ産業市場は2030年に約200兆円規模に拡大すると見込まれています。このような情勢の中、日本でも2030年に世界最先端のバイオエコノミーを実現することを目標に、新たなバイオ戦略が策定されています※。

産業界ではCO_2削減、炭素循環型社会の実現と持続的経済成長の両立が課題となっています。その対策の一つとして、再生可能な資源の活用と、それを経済成長に結びつけるバイオエコノミー関連技術の開発が注目されています。

バイオ生産プロセスは、原料を化石資源に依存せず、植物や微生物の細胞が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した「スマートセル」などの構築によって高機能香料素材などを生産することが可能です。また化学プロセスに比べて省エネルギーな物質生産にも寄与することから、炭素循環型社会の実現に向けたカーボンリサイクル技術として大きく期待を集めています。

今回の研究は微生物を利用して、原料から生産までの一貫したバイオ生産プロセスを開発するため、バイオ資源（酵素群・微生物など）の拡充や、バイオプロセスの工業化を容易とする要素技術を開発します。

※バイオ戦略2019、バイオ戦略2020（内閣府ホームページhttps://www8.cao.go.jp/cstp/bio/index.html）

品質保証

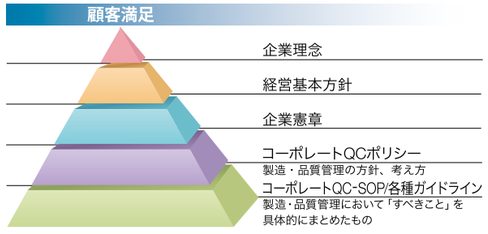
高砂香料グループは、お客様の製品品質と安全に対するニーズやご要望にお応えするために、価値あるパートナーとしてお客様とともに歩み続けることをお約束します。

■ 品質保証体制

高砂香料グループ品質保証部門（QAHQ）の使命は、政府機関、顧客、また業界団体により定められた法規制および安全基準に準拠した、安全・安心かつ信頼性の高いフレグランス、フレーバー、アロマイングリディエンツ、ファインケミカル製品を提供し続けることです。

品質保証部門は独立した組織であり、「高砂香料グループ品質保証理念」のもと、各国の品質保証部門が一つになったOne品質保証体制を構築しています。この体制には、本社機能としてグローバルQCセンターおよびグローバル安全性法規制センターを配置し、各国の品質保証部門と密接に連携を取っています。また、コーポレートSOP※と各種ガイドラインの作成を行い、グループ全社で標準化された業務フローに基づき適切な形で品質保証活動を行っていることを確認しています。

このようにして、高砂香料グループは世界中のすべてのお客様に、ご満足いただける品質を提供できるよう体制を整備しています。



※SOP：Standard Operating Procedureの略で、標準作業手順書のことを指す。業務を均質に遂行できるように作成された作業手順書。

■ QCポリシーおよびガイドライン

コーポレートQCポリシーは、グローバルで一貫した品質理念を浸透させるべく、企業理念、経営基本方針、企業憲章を踏まえ、お客様の期待にお応えできるよう策定されています。

すべての事業部門およびすべての地域の品質管理部門において詳細な品質管理手順を標準化するために、コーポレートQCポリシーを上位に置く形でコーポレートQC-SOPを補完文章として作成しています。また、より詳細な業務運用が書かれた各種ガイドラインは、各国の品質管理手順書および運用にも組み込まれ、グローバルで統一した品質管理ができる体制を整えています。

■ 国際会議

お客様や市場のニーズに合った安全・安心な品質を提供していくために、定期的に品質保証部門の国際会議を開催し、最新の法規制への対応やポリシーおよびガイドラインの更新について協議しています。また、共通する課題や懸案事項を議論し、解決に向けた取り組みの実施や水平展開を図っています。この会議を通じ、全世界のすべてのお客様に同じレベルの品質とサービスが提供できるよう継続的に改善しています。

例えば、QCセンターでは、半年ごとの電話会議や2年に一度の国際会議を通して全拠点のQCリーダーと、情報交換、ベストプラクティスの共有と活用、KPIの設定と測定、改善に関する情報共有とその効果等の議論の場に活用しています。

■ 専門技能トレーニング

品質とサービスをより良いものに改善し維持していくために、グローバルQCセンターが国内外すべての品質管理部門に対し、官能評価や検査技術などに関するさまざまなトレーニングを実施しています。トレーニングの結果は各拠点の責任者へ迅速に共有されると同時に、必要に応じて課題設定が行われる仕組みになっています。

このトレーニングシステムは、世界中のすべての顧客に同じ高品質のサービスを提供し、高砂製品が一貫して顧客のすべての要求を満たすか、それを上回ることを保証するための鍵となります。最近のフレーバー QCトレーニングでは、官能検査、ガスクロマトグラフィー法、メンテナンス手順、ラボ環境の維持のためのベストプラクティス、さらに特定の分析分野を改善・強化するために、拠点のニーズに応えることも目的としています。フレグランスQCトレーニングでは、天然原料や最終製品の嗅覚トレーニングを行い、それらの複雑な性質や特徴を把握することにより、原料・製品の品質の許容水準を共有するための議論も行われました。トレーニング終了後、テクニカル・レファレンス・サポートとして妥当性が確認された参加者は、自身の拠点にて日常的な嗅覚トレーニングを指導し、フレグランスQCセンターの官能的な窓口として活動します。ファインケミカル分野では、アメリカの製薬メーカーやアメリカ食品医薬品局（FDA: Food and Drug Administration）の査察が多くなってきており、2019年度は国内要員がグローバルフレグランス安全性法規制センターでの研修を行い、現行医薬品適正製造基準（cGMP）の知見を習得しました。

これらのトレーニングは、世界中のお客様に最高品質の製品を提供し続けるための重要な取り組みであり、高砂製品の品質の標準化に寄与するだけでなく、「One TAKASAGO」としてのQCチーム間のチームワークの向上にもつながっています。

■ コンプライアンス

法令・規制を遵守することをコーポレートQCポリシーに掲げています。グローバル安全性法規制センターは、法規制、顧客要求、またFEMA、IFRA、RIFM、IOFI など業界団体からの基準およびガイドラインの改定に対応するため、継続的に情報収集を行っています。製品が安全・安心かつ信頼されるよう、グローバルでのタイムリーな情報共有を通じてコンプライアンス対応を図っています。

■ 品質保証に関する認証

高砂香料グループは求められた品質を製造し提供できるよう、ニーズに合わせてISO9001、FSSC 22000／ISO22000、GFSIなど、国際的な品質・食品安全の管理運用のための認証取得を進めています。最近では、インドネシアにフレーバーおよびフレグランスの製造工場を新設し、2020年3月にISO9001、そして2020年4月にフレーバーではGFSI承認規格であり、世界の食品関連企業に支持されるFSSC22000の食品安全マネジメントシステムの認証を取得しました。このような国際標準システムの導入は、国内外のグループ会社を含む全社的な取り組みであり、国際規格の適切な運用は、グローバルで標準化を推進すると同時に、品質とサービスの向上にも役立てられています。

■ 品質監査

品質管理体制をさらに強化するため、グローバルQCセンターは定期的に国内外の製造拠点に対し実地で品質監査を実施し、システムの継続的な改善を図るとともに、定められた要求事項・基準を満たし、高砂香料グループの事業計画・目標・品質管理方針に沿ったものであることを確認しています。監査実施後は、各拠点から報告される月次報告書を通じ、是正処置および予防処置が計画通りに履行されていることを確認し、必要に応じて指導を行っています。

■ 顧客の安全衛生

高砂香料グループでは、製品づくりの一環として、すべての製品がお客様の安全衛生に適合しているかどうかを常に評価しています。

この考え方は、研究開発段階から製品の製造・納入に至るまで適用されています。

株主・投資家とのかかわり

健全かつ透明性の高い企業経営による持続的な成長を通じて、適切な利益還元に努めるとともに、国内外の株主・投資家の皆様とのコミュニケーション環境の充実を図っています。

適時・適切な情報開示

■ インベスター・リレーションズ（IR）

高砂香料グループでは、株主・投資家の皆様に対し積極的な情報開示を行っています。

株主の皆様には、年２回「株主通信」を郵送でお届けしています。投資家コミュニティーの拡大に向けて、ウェブサイトのIRサイトにおいて関連資料やプレスリリースを公開しており、皆様に事業内容への理解を深めていただけるようIR活動の向上に努めています。機関投資家・アナリスト向けには、期末および第２四半期の決算発表後の年２回、社長および担当役員による決算説明会を開催しています。2020年３月期の決算説明会は、新型コロナウイルス感染予防への対応として、テレフォンカンファレンス形式で行いました。内容については、IRサイトにて公開しております。

株主総会・株主還元

■ 株主総会

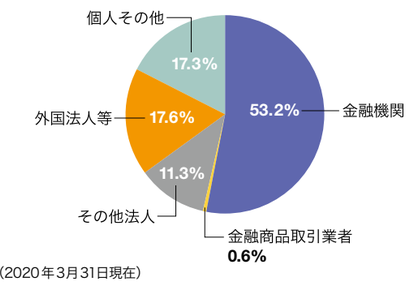
より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、いわゆる第一集中日を回避した開催日程としています。招集通知の早期発送に努めており、株主総会開催の３週間前までの発送および発送日前までのインターネット開示を実施しています。また、当日ご欠席の株主の皆様の利便性向上のため、インターネットによる議決権行使環境の整備も行っています。

■ 株主還元

株主重視の経営を旨として、より高水準の利益を確保できる経営体質を目指し、安定配当の継続、ならびに業績水準を勘案した配当を実施することを基本方針としています。

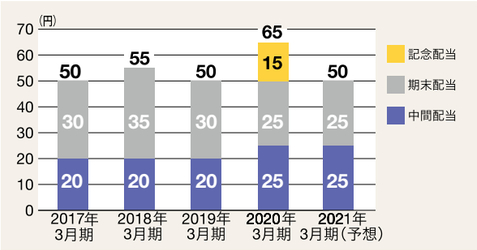
2020年３月期の配当につきましては、この方針を踏まえ、中間配当は１株当たり25円、期末配当は40円（普通配当25円、記念配当15円）を実施し、年間65円の配当といたしました。2021年３月期は中間配当25円、期末配当25円の合計50円とする予定です。資本政策の中での株主還元は、事業活動や、非事業資産の売却などで得られたキャッシュフローを、「成長分野への投資」「財務基盤の強化」「株主還元」の三つにバランス良く配分していくことで対応していきます。

● **株式分布図**（所有者別構成比）



（2020年３月31日現在）
（注）個人その他には、自己株式としての保有分（2.7%）が含まれております。

● **１株あたりの配当金**



地域・社会とのかかわり

高砂香料グループは、地域の方々と良好なコミュニケーションを図りながら、ボランティア活動や地域交流に積極的に参加しています。また、香料会社の特性を活かし、多くの方に香りへの親しみを深めていただく活動に取り組んでいます。

国内の取り組み

■ においの体験教室に協力

平塚市の神奈川県環境科学センターで開催された「においの体験教室」に、当社が香料提供を行いました。この体験教室は、におい・かおり環境協会主催の企画で、香りを通した環境保全への取り組みを紹介しています。

夏休み期間中ということもあり、多くの小学生と保護者の方が来場されました。テーブルの上に設置された香料をしみこませた綿入りの容器をかぎながら、何の香りかを当てるクイズを体験してもらいました。当たった方も外れた方も、楽しそうに話し合いながら香りをかいでおり、終始和やかなムードに包まれていました。

■ インターンシップの実施

2019年度に引き続きJET参加者向けインターンシップを実施、３名のインターン生を受け入れました。JETとは、語学指導等を行う外国青年招致事業（The Japan Exchange and Teaching Programme）の略で、日本の英語教育と地方自治体や教育機関の国際化支援のため、諸外国の若い大学卒業者を日本に招待するプログラムです。プログラムの終了後、多くのJET参加者は日本で就職する道を選びます。当社では2017年から３年間、合計８名を受け入れ、日本の職場の習慣や文化についても学ぶ機会を提供しています。

このたび受け入れた３名は、いずれも日本企業を経験するのは当社が初めてとのことでした。受け入れ部署のプログラムに沿って過ごした５日間は、たくさんの知識・刺激を受け、充実したものであったとのことです。私たちも彼らのコミュニケーション力、積極性や熱意に深く感銘を受け、改めて当社の事業・業務について基本に立ち返る機会となりました。

■ 環境美化活動

各事業所では、周辺の清掃をはじめとする地域行事や環境保全活動に積極的に取り組み、地域に根差した活動を継続的に実施しています。

鹿島工場では、近隣で行われた海岸清掃活動に参加しました。この海岸清掃は「日川浜」という海水浴場で海開き前に行われるボランティア活動で、鹿島工場は毎年参加しています。

活動当日はあいにくの小雨でしたが、近隣住民・学校・企業から約2,000名が参加しました。驚くほど多くのごみが集められました。それは故意に捨てなければ海岸に落ちているはずがないもので、環境破壊が身近にあるものだと実感することができる量でした。

鹿島工場は、このボランティア活動で得られた経験を忘れずに、製造を通じて社会に貢献するだけでなく、環境保全などさまざまな形で地域に貢献し続けてまいります。

■ 磐田工場　まち美化パートナー活動 表彰および市長表敬訪問

磐田工場は、2008年に工場近隣の河川周辺や農業用水路、公共側溝等の清掃・美化活動への協力制度である「磐田市まち美化パートナー制度」に加盟して以来、継続して活動を行ってきました。

継続的活動に対して2018年に静岡県の土木事務所より河川愛護団体として表彰を受け、同年９月には磐田市長への表敬訪問・報告を行いました。そして、このたび磐田市道路河川課主催の情報交換会にて、まち美化パートナー団体としての活動内容を発表をしました。

磐田工場は、今後も近隣の自治体や住民、企業と協力し、清掃活動・環境美化への取り組みを継続していきます。

海外の取り組み

■ 産業エネルギー地域賞受賞

スペインにある高砂香料グループ会社（TICSA：略称）は、環境・安全衛生・事故防止において達成した努力と改善が評価され、ムルシア地域産業技術者協会より第１回産業安全賞を受賞しました。

受賞式でスピーチを述べた社長の松田は、施設やプロセスの安全の重要性を改めて示すとともに、高砂香料の理念・技術を通じてこれからも社会に貢献していく決意を表明しました。

安全な働き方の実現に向け、今後も全従業員が日々の努力を続けていきます。

■ 高砂インド　備品の寄付・交流

高砂インドでは、工場近隣の小学校に、授業で使用する黒板４つを寄付いたしました。

また、その学校の子どもたちを対象にヨガ教室を開催することで、地元住民と活気あふれる交流の機会を得ることが出来ました。さまざまな活動を通し、これからも地域、社会との共存共栄を目指します。

文化活動としての取り組み

■ 高砂コレクション®

香りの歴史は5000年以上ともいわれ、人類は長い歴史の中で独特な香り文化を形成してきました。

「高砂コレクション®」は、日本の伝統芸道をつたえる香道具（香炉・香合など）をはじめ、中国の香炉、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の香油瓶、そして18世紀から現代に至る香水瓶など約1,000点に及び、その一部を本社ギャラリーでご覧いただくことができます。

【高砂コレクション・ギャラリーのご案内】
東京都大田区蒲田 5-37-1
ニッセイアロマスクエア 17F
【閲覧時間】 10:00～17:00
（入室は閉室の 30 分前まで）
【定休日】 土日祝日、年末年始、当社休業日
※10名以上の場合は事前予約が必要
（2020年11月現在、新型コロナウイルス感染予防および拡大防止のため休館中）

また、2020年２月９日に創業100周年を迎えるに際し、コレクションの全容とその価値を紹介する書籍（二ヶ国語）を制作しました。記念品として従業員に配布するとともに、お客様、図書館、美術館、博物館などに謹呈しました。書籍発行を通して、古今東西の香り文化をより多くの方にお届けできればと考えています。

「百香繚乱」
高砂コレクション
香りの図鑑

EHS報告

Environment（環境）　Health（健康・衛生）　Safety（安全）

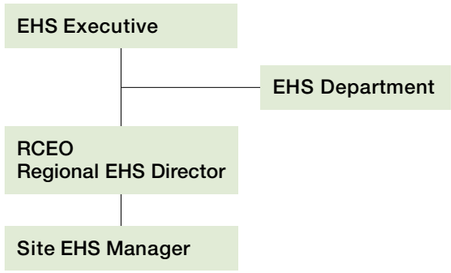
EHS マネージメント

グローバルEHSマネージメント

高砂香料グループは、環境保護と従業員やステークホルダーに対する安全と衛生が重要であると認識しています。安全統括本部は、すべてのグローバルなEHS活動の戦略と計画を策定する責任を有しています。

グローバルEHS委員会（GEC）は、EHS担当役員を委員長とし各国製造拠点のEHS部門の代表者を委員として組織されています。GECの役割は高砂香料グループのEHS活動の標準化と計画を推進していくことであり、四半期ごとに開催され、環境、安全衛生に対するグローバルな活動をマネージメントしています。

● グローバル EHS 委員会 (GEC)



安全管理部は、グループ内でのルールを設定し、このルールがグローバルで適切に実行されるためのガイドラインと詳細な必須事項を策定しています。

2009年度から2020年度にわたる「EHS100プラン」と呼ばれる中長期CSR計画があり、気候変動（CO_2排出量の削減）、環境保護（水使用量の削減）、廃棄物管理、再生可能エネルギーの推進、化学物質管理といった目標が設定されています。

これらに関係するEHSデータは、「T-ReCS®」と呼ばれるデータ管理システムに拠点ごとに定期的に入力を行い、安全管理部がモニターする仕組みとなっています。

EHS管理に対するPDCAサイクルをより円滑なものとするため、すでに環境マネージメントシステムではISO14001の認証を得ていますが、これに加えて今後２年間で労働安全衛生マネージメントシステムとしてISO45001の認証を取得した上で、両者を統合します。これにより、EHSマネージメントシステムとして、ISOの規格に基づく管理を全体で実践できることになります。

EHS宣言

高砂香料グループの経営基盤の一つとして、Environment（環境）、Health（健康・衛生）、Safety（安全）の頭文字をとった「EHS宣言」を制定し、ウェブサイトを通じ、すべてのステークホルダーの皆様に公表しています。なお、2020年４月にISO45001の要求事項に対応するため「EHS宣言」の一部を改定しました。

高砂香料グループは、技術立脚の精神に則り、社会に貢献するグローバル企業として、法令及び社内指針・基準を遵守し、地球環境の保護、人々の健康と安全に対する社会の要請に応え、持続可能な社会の実現に寄与する企業を目指します。

1. 私たちは、すべての事業活動に対し、EHSを最優先の行動原則とします。
2. 私たちは、社内外のステークホルダーと協調し、積極的にEHS活動を推進します。
3. 私たちは、事業活動によるEHSリスクの評価および低減を通じて、環境保護と従業員が安全で健康的に働くことのできる職場環境の整備に努めます。
4. 私たちは、EHS活動の具体的な目標を定めて、その達成のためにマネージメントシステムの継続的改善を図ります。

このEHS宣言は28の国と地域にわたるすべての従業員とEHSにおけるグループのビジョン・価値観を共有するために11の言語で作成されています。EHS活動は主要かつ基本的な活動として定められており、EHS宣言に

基づいて2020年度のEHS100プランを策定・実施しています。また、EHS活動の質を高めるために、EHS宣言に基づく必要最低限の行動規範を含む「Minimum EHS Requirements」を設定しています。

環境

高砂香料グループでは、経営基本方針の一つとして「地球環境に配慮し、地域社会を大切にした、世界の人々から共感を得られる企業」を目指し、事業活動から発生する環境負荷の低減に努めています。

■ 環境マネージメントシステム

高砂香料グループは2011年より、国内外の主要な生産拠点を登録範囲としたISO14001マルチサイト認証を維持しており、2019年12月現在、国内外20の主要な生産拠点および研究開発部（神奈川県平塚市）、本社安全管理部を登録範囲としています。今後はISO45001と統合したEHSマネージメントシステムとして、計画的に登録範囲を拡大し、より実効性のあるEHSマネージメントを目指し、活動を強化していきます。

■ 気候変動

高砂香料グループは、気候変動をグローバル視点で長期的に取り組むべき地球規模の課題と認識しています。2018年10月に気候変動イニシアティブに参加を表明、またTCFD※1推奨開示項目について取締役会にて議論を重ね、2020年4月にその推奨4項目の開示をいたしました。「指標と目標」については、SBTiの基準に沿った目標の設定と平行して検討を進めております。CO_2削減目標の策定と達成するための手法の検討をさらに深めてまいります。

TCFD推奨開示内容全体はホームページにてご覧いただけます。

https://www.takasago.com/ja/sustainability/tcfd.html

● TCFD 推奨開示項目（抜粋）

ガバナンス　**戦略**　リスク管理　指標と目標

2030年以降の気候変動による リスク・機会の特定

リスク（物理的）

豪雨や洪水などの自社拠点の操業を含むサプライチェーンへの影響など

—— 重要拠点でのBCP策定および事業継続力の強化

機　会

気候変動への適応によるエネルギー効率等操業面での改善やイノベーションによる新製品の開発等

—— 低炭素商品・低炭素技術の研究開発・販売

—— グリーンケミストリーの実現に向けた取り組みを推進

※1 TCFD（Taskforce on Climate-related Financial Disclosure）とは各国の中央銀行総裁および財務大臣からなる金融安定理事会（FSB）の作業部会です。投資家等が適切に判断するため、一貫性、比較可能性、信頼性、明確性を持つ、効率的な気候関連財務情報開示を企業へ促すことを目的とし、2017年に自主的な情報開示の在り方に関する提言を公表しています。

コロナ危機からの「グリーンリカバリー」

企業にも「2°C目標」達成に向けた取り組みを促している国際的なNPO、環境保全団体などが共同で運営している団体「SBTi」は、世界的に影響を及ぼしているコロナ危機からの経済回復において、CO_2排出量等環境負荷にも配慮した「グリーンリカバリー」を求める宣言を出し、世界各国171社が署名、当社も署名いたしました。

Column

医薬品製造用 iFactory®（アイファクトリー）の開発

高砂ケミカルは、異業種7社および国立研究開発法人産業技術総合研究所とともに、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構の助成事業である「再構成可能なモジュール型単位操作の相互接続に基づいた医薬品製造用 iFactory®の開発」に参画しています。本事業は、連続生産プロセスに必要なモジュールを複数開発し、それらを組み合わせた革新的生産システム「iFactory®」を構築することで、2030年次において原油換算で10万kl以上のエネルギー削減を目指しています。iFactory®を構成するモジュールは容易に運搬できるため、地震や津波、水害等の自然災害予測に応じて、被災地域外に移動し、iFactory®を再構築することにより、生産の継続が可能となります。2020年度は、コアモジュールの製作に加え、自動分析装置や制御システムとの連動検証を行います。高砂香料グループは、持続可能な生産体制の構築に加え、気候変動の緩和、低炭素社会への移行の一助となれるよう、これら取り組みを推進してまいります。

トラックの荷台で稼働可能なモバイルファクトリーは事業継続計画、事前復興策としての役割も期待されています

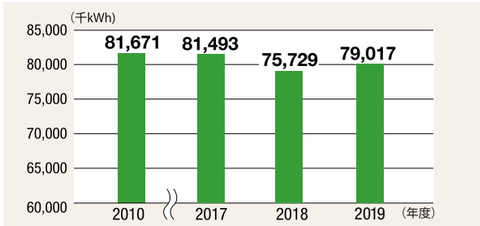
■ 温室効果ガス排出

私たちは世界中から調達されるさまざまな天然原料を使用し製品を製造しています。原材料の価格、品質、供給量は、特に近年、世界中で悪天候による影響を受けています。気候変動に適切に対処することは、地球環境を保護するためだけでなく、私たちの事業の持続可能性に直接関連する、製品の原料の供給を確保するために非常に重要な課題となっています。

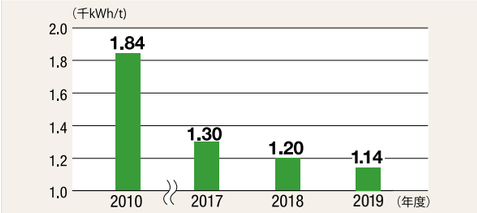
この課題への取り組みの一環として、高砂香料グループは、Science Based Targets Initiativeへの賛同を2019年7月に表明し、2021年3月までにSBTiの基準に沿った目標を導入するための計画を策定いたしました。目標の設定に向け、2018年度に環境省のサプライチェーン排出量算定支援を受け、対象となるすべてのカテゴリについて算定を開始しました。2020年度中に削減対象のカテゴリや活動の内容を決定し、現在のEHS100プランに続く計画において目標を決定し、削減に向けた活動を実施していく予定です。

各拠点で積極的に省エネ活動を推進し消費電力を抑える活動等実施してまいりましたが、事業活動の拡大にともない、電力使用量については対前年比で約1％増加する結果となってしまいました。また信頼性の高い環境パフォーマンスデータの取得・公表をめざし、第三者による排出量検証を受審するとともに、排出量の算定方法見直しを実施したことで、2019年のCO_2排出の絶対量は対前年比で2.9％増加しました。

● 消費電力量の推移

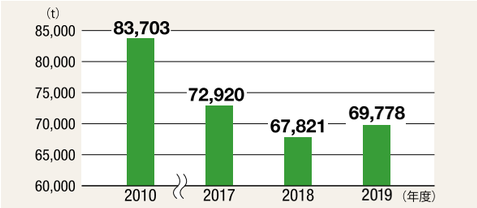


● **生産原単位当たり消費電力量の推移**



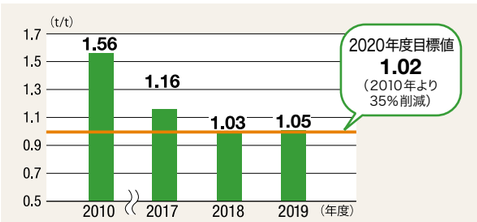
対前年比の視点では絶対量、原単位ともに削減を達成することは出来ませんでしたが、これまでの省エネ活動により1トン生産当たりのCO_2排出量の削減はEHS100プランで当初設定していた目標を大きく上回っており、2010年度比で目標の20%を既に達成したことから、2019年度に目標値の見直しを実施し、2020年度までに35%の削減という目標を再設定しています。最終年度まで残りわずかですが目標達成をめざし活動を継続していきます。

● **CO_2 排出量の推移**



※インド販売3拠点、およびアメリカ製造1拠点を除く

● **生産原単位当たり CO_2 排出量の推移**



国内では、計画的な設備更新や、事業所間の相互点検、教育等の活動を通じて、省エネを推進しており、海外拠点においても、EHS100プランに沿って拠点ごとに目標を設け、CO_2排出量の削減に取り組んでいます。特に、EU圏において再エネ由来の電力への切り替えを積極的に推進し、CO_2排出量の削減に努めています。

● **各カテゴリの排出量**

		CO_2 排出量 (t)	温室効果ガス総排出量に対する比率
Cat1	購入した製品・サービス	717,975	84.6%
Cat2	資本財	22,378	2.6%
Cat3	Scope1, 2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	12,105	1.4%
Cat4	輸送、配送（上流）	14,855	1.8%
Cat5	事業から出る廃棄物	6,713	0.8%
Cat6	出張	464	0.1%
Cat7	雇用者の通勤	6,016	0.7%
Cat8	リース資産（上流）	-	-
Cat9	輸送、配送（下流）	-	-
Cat10	販売した製品の加工	-	-
Cat11	販売した製品の使用	-	-
Cat12	販売した製品の廃棄	746	0.1%
Cat13	リース資産（下流）	65	0.0%
Cat14	フランチャイズ	-	-
Cat15	投資	-	-
Scope3	（総量）	781,320	92.1%
Scope1		32,727	3.9%
Scope2		34,362	4.1%
温室効果ガス総排出量		848,409	100.0%

CO_2排出量は第三者検証の結果を反映し数値を更新いたしました。
※対象範囲：高砂香料グループ　(−)は算定方法検討中または対象外
対象年度：2019年度

水資源

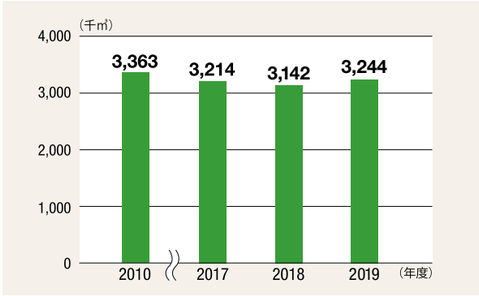
私たちは、洗浄、冷却を含む生産プロセス、およびその他の目的で水を利用しており、利用できる水の量の減少や水質の変化、劣化は、生産量や品質に直接大きな影響を与えるため、十分な量の、安定した水質の水の確保は私たちの事業にとって大変重要な要件となっています。

私たちは13の国と地域に生産設備を有しておりますが、一部は将来的に水需要の増加が見込まれる地域に立地しているため、各拠点における水利用の具体的な条件や要件を理解し、適切な水利用に努めることが重要だと考えています。規制動向やリスク分析等の定期的な調査を通じ、各サイトでの水リスクの特定と関連する管理策の把握に努めていきます。

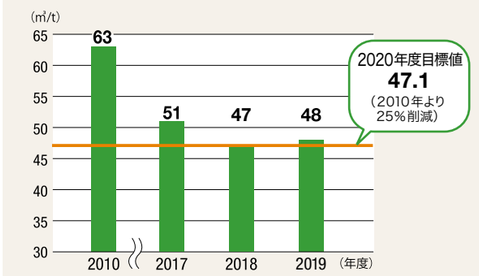
高砂香料グループでは水使用量（取水量）の削減をISO14001におけるグループ共通の目標として設定し、工程内で使用された水の循環利用や、洗浄工程の見直しなどを通じて、2019年度の水使用量（総量）を対前年比で約1%増加しています。工場から排出される水については、主要な工場への排水処理設備の設置、排出される水の質のモニタリングにより、法令や自治体との協定に基づいた排水基準の遵守および汚染の防止に努めています。

また、国内工場では、周辺河川の清掃や、水源の涵養活動への参加を行うなど、水環境を保護するための活動も行っています。

● **水使用量の推移**



● **生産原単位当たり水使用量の推移**



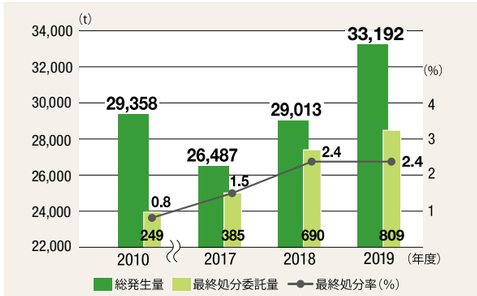
資源循環

2019年度は、グループ全体で、廃棄物総発生量が対前年比で14%増加となりました。これは国内外グループ全体での廃棄物排出量の把握が進んだためです。

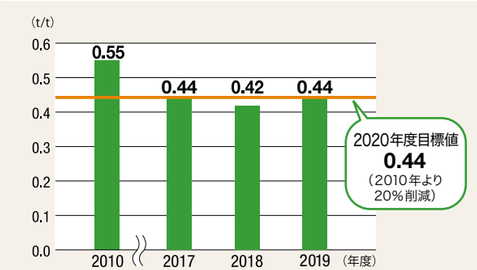
2.4%は最終的に埋め立てられましたが、マニフェスト制度が整っていない国や地域もあり、外部委託先における廃棄物の処理情報が入手できない、あるいは不明確な場合もあります。

廃棄物に関する考え方や規制は、国や地域により大きく異なり、ごみの分別や分別収集ができない事業所がありますが、発生する廃棄物の適切な分別、リサイクルの実践、関連する教育などを通じ、発生量の削減を目指しています。今後とも、処理内容の開示ができる委託会社を選定するなどして、より精度の高いデータの収集を目指します。また処理業者の監査の実施や内部監査などを通じ、廃棄物の適正な処理に努めてまいります。

● **産業廃棄物発生量の推移**



● **生産原単位当たり産業廃棄物発生量の推移**



化学物質

高砂香料グループでは、化学物質の適正管理および法規制の遵守、使用量の削減に取り組んでいます。

〈国内での取り組み〉

SDS※1を用いて対象となる化学物質の情報を事前に取扱者に提供するとともに、PRTR法の対象となる化学物質は、法令に則って実態を把握し、報告を行っています。また、事業活動で使用している化学物質の情報を「T-ReCS®」※2で集計しています。

〈グローバルでの取り組み〉

自主規制の対象となるVOC（揮発性有機化合物）を、

ホルムアルデヒド、トルエン、アセトン、エタノール、2-プロパノール、ヘキサノールの6化合物とし、グループ全体の使用状況の把握に努めています。

PCB等特別な管理が必要な化学物資については、各国の法規制に基づいた適正な管理を行っています。今後も従業員に対するSDS およびGHS※3ラベルに関する教育訓練や内部監査などを通じ、従業員とその他ステークホルダー全般における安全の確保や環境リスクの低減、法規制への対応を確実にしていきます。

※1 SDS（安全データシート）：Safety Data Sheetの略で、化学製品を安全に取り扱うための情報が載っている文書を指す。
※2 T-ReCS：高砂香料グループでは、国内外拠点の各種CSRデータを集約し、管理するために「T-ReCS®」というシステムを活用。T-ReCSとは、Takasago Responsible Care System の略称で、2010年に環境データ収集の目的で導入し、今では社会面におけるデータ収集にも活用範囲を拡大させている。
※3 GHS：Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals とは、化学品の危険有害性（ハザード）ごとに分類基準およびラベルや安全データシートの内容を調和させ、世界的に統一されたルールとして提供するもの。

汚染予防（環境コンプライアンス）

大気や水域への排出、廃棄物管理等について、国内においては国や県・市等、海外においては国や州、省等が定める環境関連の規制、要求事項、および規制基準に基づき管理、監視を行うとともに、環境事故や法令違反を起こさないよう、また、必要に応じてグループ内でベストプラクティスを共有するとともに、内部監査やISO審査などを通じて、コンプライアンスの徹底をはかってまいります。

労働安全衛生

OHSマネージメントシステムの導入

高砂香料グループでは現在、EHS100プランに則り、ISO45001（OHSMS; 労働安全衛生マネージメントシステム）の認証取得を目指して取り組みを進めています。当社グループでは、2013年12月以降さまざまな決めごとや仕組みを作ってきましたが、OHSMSの導入により、これまで作ってきた決めごとや仕組みを整理し、当社グループとして実質的なマネージメントシステムおよび安全文化を構築することで事故労災の撲滅を図ります。

当社グループのマネージメントシステムは、環境マネージメントシステムと労働安全衛生マネージメントシステムを統合したEHSマネージメントシステムとし、また、現行の環境マネージメントシステムと同様にマルチサイト認証の取得を目指しています。

2019年12月にキックオフを行い、2020年末に日本の製造拠点での認証取得、2021年末に研究開発本部および他の国への拡大を目指しています。

インシデントレポートルール

高砂香料グループにはEHS関連のインシデントに関するグローバルレベルのレポートルールがあり、そのレポートを通じて世界中のサイトでインシデントの概要、根本原因、対策が共有されます。

当社グループ本社安全管理部は、各サイトから報告されるレポートを精査し、必要に応じてフィードバックを提供します。安全管理部は、GEC、安全協議会またはメールを通じてこれらのレポートを共有します。他のサイトは、これらの情報に基づいて、自サイトで同様のインシデントが発生しないよう、対策を講じます。

グループ統一方式での労働安全衛生リスクアセスメントの実施

高砂香料グループでは、これまで各拠点にて独自に実施されていた労働安全衛生リスクアセスメント（以下、OHSリスクアセスメント）をグループ共通方式に変更し、2019年1月にOHS Risk Assessment Ruleを発行しました。

このルールは、国内だけでなく、海外拠点においても所在国での法令上の不一致がない限り、展開しております。

OHSリスクアセスメントは、職場における事故・労働災害の起因となる危険源を特定し、予見可能なリスクへの予防措置を行っていく活動です。 私たちは、このOHSリスクアセスメントが重大な事故・労働災害撲滅に向けて非常に重要な役割を果たすと信じ、グローバルでのOHSリスクアセスメントを推進してまいります。

労働安全衛生教育

OHS Risk Assessment Rule発行に先立ち、2018年12月に国内外のEHSマネージャーに対して、OHSリスクアセスメント概要と同ルールの説明、同ルールに基づくOHSリスクアセスメントワークショップを開催しました。ワークショップでは、各国のEHSマネージャーがルールにより深い理解を得るとともに、それぞれのEHSマネージャーの危険源やリスク、そして対策における考え方についての情報共有ができました。また、日本ではさらなるOHSリスクアセスメント推進強化を図るため、各生産拠点でのワークショップを実施し、EHSマネージャー以外の方々へのOHSリスクアセスメントへの理解を深めています。

また、2020年の高砂安全の日では、「職場における危険源の特定と、予見可能なリスクへの対応」をテーマにした動画を作成し、生産拠点だけでなく、事務職を含めた国内外すべての従業員に対しても安全に対する教育を行っています。

各拠点では労働安全衛生の教育計画を策定し、それぞれ独自のOHSリスクに対する教育を行っています。

現場確認とコミュニケーション

2013年の火災事故以降、私たちは「安全はすべてに優先する」を基本理念とし、国内生産拠点、研究所および配送センターに対して定期的な安全監査を実施しています。安全監査では、労働安全衛生上の重要課題を抽出して、課題解決に向けた検討、対策の水平展開を行っています。

また、国内の生産拠点、研究所及び配送センターから安全管理を担当する責任者、本社役員及び関係者による月次の安全協議会を開催し、EHS関連法改正や各拠点の安全衛生活動・事故労災等の情報共有や労働安全衛生対策についての話し合いを行っています。

さらに、海外拠点に対しては2019年3月より、EHS Inspectionを開始し、高砂香料グループで取り組むべき環境・労働安全衛生上の要求事項の説明及びその実施状況の点検やベストプラクティスの共有を行っています。EHS Inspection実施にあたっては、調査方法、会議資料、調査チェックリストの標準化を行い、これまでに米国、インド、シンガポールで行いました。

「安全の日」Takasago Safety Day 2020

“2013年に発生した火災事故を二度と起こさない”という誓いのもと、事故を振り返り、
一人ひとりの安全意識を高めることを目的に、火災事故発生日の4月10日を「安全の日」と定めました。
今回で7回目となる2020年度は、「職場における危険源の特定と予見可能なリスクへの対応」を
テーマに掲げました。
このテーマに基づき国内外高砂香料グループ各社も参加して「安全の日」の意義をグローバルに浸透させる
べく、「安全」に対する意識の醸成と知識の向上を図るために、教育・訓練を実施する予定でした。
しかしながら、新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の全世界的な感染拡大に伴い、
各拠点とも感染防止を第一優先とし、高砂安全の日のプログラムを大幅に
変更せざるを得ない状況となりました。
各拠点では、例年のような全員集合した形でのプログラムを行うことができませんでしたが、
社員各自のPC、部署ごと、少人数グループなど、「三密」を避ける措置を講じたうえで「社長訓示」、
「安全統括本部副本部長説示」および「コアタイム」のビデオ視聴を行いました。
さらにこれに加え、拠点ごとに工夫を凝らした教育・訓練を実施したことで
非常に有意義な「高砂安全の日」とすることができました。
各拠点とも「COVID-19」の早期収束を願いつつ、事故から得た教訓を風化させないよう、
それぞれが改めて「安全」に対する強い意識を持った日となりました。

社内ポータルに掲載された訓示・説示

予見可能なリスクへの対応を検討しよう

代表取締役社長 桝村　訓示より抜粋

2020年は『職場における危険源の特定と、予見可能なリスクへの対応』をテーマにしています。現在、高砂香料グループでは、全社を挙げてISO45001の認証を取得すべく、労働安全衛生活動の強化を図っていますが、中でも、職場において、危険源を特定しておくことや予見可能なリスクへの対応を認識しておくことは、安全で衛生的な職場環境を構築していく上でとても重要なことです。事故を起こす要因は、不適切な設計、監督不備、メンテナンス不良、手順書の不備、教育訓練不足、工具や保護具の不良、作業者の行動などさまざまです。この機会に改めて『身の周りにどのような事故・労災につながる危険源が潜んでいるのか?』『それらはどの程度のリスクにつながるのか?』『それらを回避するにはどうしたら良いか?』を皆で考えることで、さらなる安全に対する認識を深め、事故や労働災害を回避したいと思います。

『あのような事故を二度と起こしてはならない』と固く決意し、一人ひとりが、安全は自分自身のためでもあり、同僚後輩先輩のためでもあり、家族のため、社会のためであることを認識して、『安全はすべてに優先する』行動を強い意志を持って実践していきましょう。

各拠点の活動報告

高砂香料 鹿島工場

- 出火シナリオに基づき訓練を実施
- 未低減案件のリスクアセスメントの実施
- 職場内での人や物の転倒リスク抽出、または新たな危険源の抽出に関する会議の実施

高砂香料西日本工場

- 大地震が発生したことを想定した、出勤者および委託業者での防災訓練実施
- 緊急遮断弁操作未経験者対象とした操作説明会
- 各職場を数グループに分けてのエリアベースリスクアセスメント実施

南海果工

- EMSMS効果測定

Madagascar

- 職場の危険源特定
- 感染防止対策
- 効果測定

Shanghai, China

- 避難訓練、心肺蘇生法、消火訓練
- 狭いところからの救出訓練
- 漏洩防止訓練

Morocco

- 安全の日に関するディスカッション

管理の穴をなくし、事故・労働災害撲滅を目指す

安全統括本部副本部長 山形　説示より抜粋

事故・労働災害の原因の80%は管理の不備と言われています。事象が発生してしまった時、被災者が起こしてしまった間違いに焦点を当てがちなのですが、事故を起こした管理環境に焦点を当て、管理の仕組みの足りないところを考え、改善・是正させることで事故や労働災害を防いでいくことが大切です。仕組みの欠陥には、「管理・監督の不足」「設計・メンテナンスの不良」「手順書における不備」また「教育訓練の不足」などがありますが、それらが何らかのきっかけで管理の穴となり、事故・労働災害が発生してしまうのです。日々の活動の中、リスクアセスメントやKYT活動などを通して、事前に危険を察知して対策を講じていくことも重要なことです。

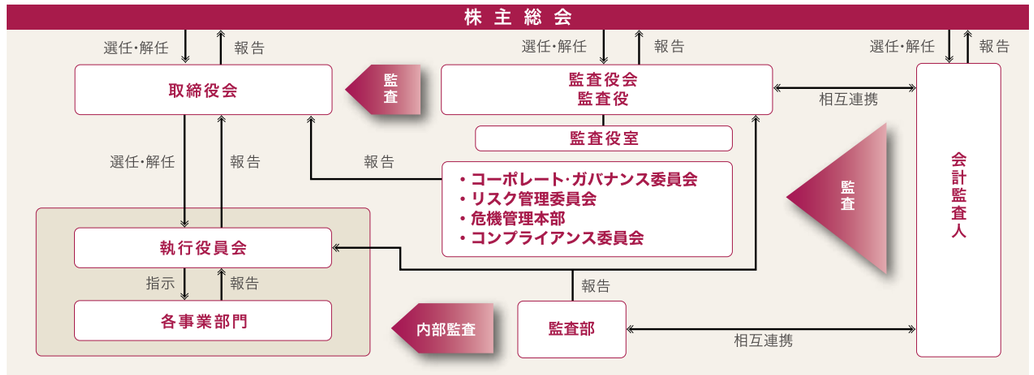
高砂香料グループでは、2020年度より国内製造拠点から労働安全衛生のマネジメントシステムであるISO45001認証の導入を開始し、これまで作ってきた決めごとや仕組みを整理し、適切に運用していくことで管理の穴をなくし、「事故・労働災害撲滅」を達成していきたいと考えています。

ISO45001認証取得については現在生産拠点で進めていただいていますが、「事故・労働災害撲滅」というのは製造現場に対してだけではなく、研究、営業、また管理業務に従事される方々も含めた、高砂香料グループで働くすべての皆さんも対象となりますので、日々の業務の中で意識をしていただきたいと考えております。

毎日の業務を事故や怪我なく安全に実施され、一人ひとりが無事に一日を終えられるよう、そして明日も、笑顔で皆さんとお会いできるよう願っています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制図



ステークホルダーの皆様から信頼され、評価される経営を目指す高砂香料グループは、経営判断の適正性・経営のチェック機能および情報開示による経営の透明性を高めることに努め、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

取締役会では、「内部統制システムに関する基本方針」を定めています。取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速性を確保するため、執行役員制を導入し、取締役会の企業統治機能と執行役員による業務執行の分化を図っています。

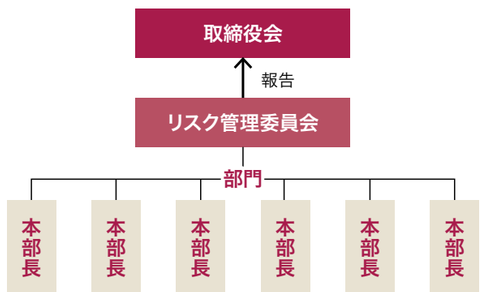
当社が東京証券取引所に提出している「コーポレート・ガバナンス報告書」は、ウェブサイトで公開しています。

https://www.takasago.com/ja/aboutus/governance.html

リスク管理委員会

リスク管理委員会は取締役社長を委員長として各本部長によって構成され、取締役会が損失／危険につながるリスクを総合的に評価・判断できるよう、マネージメント体系を強化し継続的な審議、影響の回避や軽減を図る対策を立案することを目的としています。

リスク管理委員会体制図



在宅勤務におけるサイバーセキュリティ対策

高砂香料グループでは、社内システムのセキュリティを損なうことなく在宅勤務を実現するため、以下の対応を行っております。

自宅から社内ネットワークに接続する際は、専用線（VPN）を使用して複数の認証方式を組み合わせることにより不正な接続を防ぎ、外部へのインターネット接続には、クラウド型システムを経由することにより、セキュリティポリシーに基づく安全にインターネットにアクセスできる環境を構築しております。最新のセキュリティパッチ適用やアンチウイルスの自動更新も、社内と同様に在宅勤務環境下でも実施しています。

また、マイクロソフト社の法人向けTeamsやSkype、その他Web会議アプリなども詳細ルールを設定して活用することにより、安全性を担保した上で円滑なコミュニケーションを図れるようにしています。

当社が想定するリスクには、以下を含みます。

リスク項目	関連するリスク	主要な取り組み
気候変動によるリスク	●温室効果ガスによる地球温暖化が引き起こす気候の変動ないし極端現象、あるいは不規則周期に訪れる天候不順が天然原料の調達に影響を及ぼし、原料価格の高騰を招く可能性 ●夏場の天候不順によって高砂香料グループの主力である飲料用フレーバーの販売量が左右される可能性	●グローバルなネットワークを活用し、複数社購買等を推進するとともに、調達手段の多様化を推進 ●飲料用フレーバー以外のポートフォリオの強化
為替レートの変動	●為替レートの変動による円換算後の海外連結子会社の個別財務諸表を取り込んだ連結財務諸表が影響を受ける可能性 ●外国通貨建て取引が受ける為替変動により業績に影響を及ぼす可能性	●グローバル展開により、円、米国ドル、ユーロ、人民元等への分散 ●為替変動を織り込んだ収益計画
事業のグローバル化によるリスク	●テロ・戦争等の政治的・経済的混乱、感染症の蔓延等の社会的混乱などによる、現地の生産活動や販売活動への影響を及ぼす可能性 ●グローバルな競合他社とのグローバル得意先からのコアサプライヤー認定獲得競争により、業績に影響を及ぼす可能性	●進出国の情勢の分析と情報収集 ●競合に対する差別化、技術、サービスの向上
販売に係るリスク	●天災、消費者嗜好、その他重大な変化により販売に困難が生じる可能性	●消費者嗜好性を含めたマーケット分析の強化
事故・災害に係るリスク	●自然災害や火災、爆発等の災害事故、感染症パンデミック等により事業活動に支障が生じる可能性 ●高砂香料グループだけでなく、原料サプライヤー等の設備の火災等による損失により、原料価格の高騰を招く可能性	●事故等への従業員の意識を向上させ、災害予防のための施策を実施 ●感染症等予防の施策およびリスク分散の徹底
新製品の研究開発に係るリスク	●消費者の潜在的なニーズを予想して新製品の開発を行っているが、研究開発の遅延や消費者の嗜好性やニーズ等の変化により影響を受ける可能性	●オープンイノベーションによる外部との連携を図り、多面的な研究開発力を強化
情報セキュリティに係るリスク	●不正アクセスやコンピュータウイルスの感染などにより、コンピュータシステムにおいて運用されている業務運営に必要な各種情報の漏洩、改ざん、消失が生じる可能性や、コンピュータシステムの一時的障害が生じる可能性	●従業員への研修強化を図るとともに、ITセキュリティを強化
経済情勢等に係るリスク	●日本や海外の主要市場における将来の景気の後退または減速等の経済不振が高砂香料グループの製品に対する購買力や消費者需要に悪影響を及ぼす可能性 ●低迷する経済情勢のもとで、消費者が嗜好品等の買い控えを行う可能性	●ポートフォリオの拡充による分散 ●主要ビジネスの基盤を強化し、経済不振等に対する耐性を強化
法令の遵守に係るリスク	●グローバルな事業を展開する上で、各国における製品の品質、安全・環境、化学物質、または会計基準や税法、労務、取引等さまざまな関連法令に適応しているが、現行法令の変更や新たな法令などが追加された場合、事業活動の制限、対応のための投資など、業績に影響を及ぼす可能性	●従業員への研修強化 ●現在の法令遵守について従業員への啓蒙はもとより、将来の方向性を見据えた体制整備
人材に係るリスク	●グローバルに事業を展開する上で、さまざまな人種・国籍や文化を持つ従業員が働いており、その多様性を尊重した組織能力向上を目指しているが、人材を十分に確保・育成できない可能性	●モノ作りを重視するアジア発のグローバル香料会社の従業員として、技術立脚の精神に基づく教育の実施
製品品質に係るリスク	●グローバルな事業を展開する上で、さまざまな製品を製造販売しており、これに対するクレームやリコールによる金銭的損失の他、悪意ある異物混入、物流上の破損、ヒューマンエラーによる工程内不適合により得意先等ステークホルダーからの信用を損失する可能性	●製造現場での作業ルールの徹底 ●当社グループのビジネスへの信頼の原点となる品質管理に対しては、現在同様、従業員への研修を進めるとともに、今後も管理体制の強化に注力

危機管理本部

高砂香料グループでは、緊急を要する有事の際に、本社と国内外拠点が迅速に対応できる体系整備を進めております。重要な指揮・命令がスムーズに伝達できるよう、危機管理本部（本社に設置）と国内外拠点を結ぶ報告・指示ルートの見直しを定期的に行っております。

また、大規模災害や緊急事態などの発生リスクに備え、高砂香料グループでは国内外拠点に標準化したBCP（事業継続計画）の手順整備・策定に取り組んでおります。

コンプライアンス体制

コンプライアンスを経営上の重要な課題と認識し、公正かつ適切な企業活動の展開やコーポレート・ガバナンスを充実させていく中で、体制の継続的な改善を図っています。

企業憲章および行動規範で法令や社会規範の遵守を掲げるとともに、内部通報制度「明日への窓」を設置するなど、コンプライアンスに関連する制度や諸規定を整備しています。

また、監査部においては適正な業務運営に対する業務監査を、安全統括本部においては労働安全衛生・環境保全・保安防災に関する監査を実施し、それぞれ関連する法令への適合性を含めた監査としています。さらに、ISO14001 などのマネージメントシステムに対する外部審査を受審する際にも関連法令への遵守状況が確認されています。2019 年度は、国内11 ヵ所、海外11 ヵ所で、監査法人SGS による審査を受審し、重大な法令違反はありませんでした。

コンプライアンス委員会

取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設け、重要事項を審議・立案・推進し、コンプライアンス体制の確立・遵法精神の徹底を図っています。

コンプライアンス委員会では、職制や個人での解決が困難なコンプライアンスに関するさまざまな問題について、内部通報制度を通して対応し、倫理や法令の遵守に努めています。このために当社グループの業務に従事するすべての者が利用できる相談窓口「明日への窓」を設置しています。海外拠点におきましても「コンプライアンスホットライン」を設置し、オフィスでの掲示を行うなど利用者への制度の周知も行っております。

人権に関する取り組み

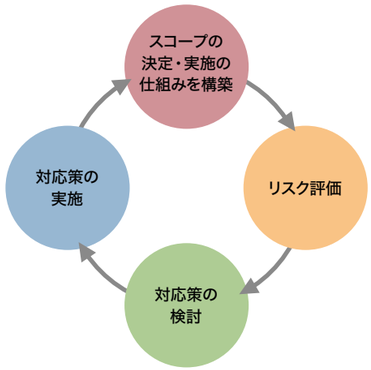
高砂香料グループは、人権や労働に関する普遍的原則に基づく国連グローバルコンパクトの10 原則へ署名をしており、人権を尊重した事業活動を進めています。

2018 年に改定した企業憲章・行動規範においても「人権の尊重」についての項目を加え、企業としての姿勢をより明確にして、社内においても人権についての意識の浸透を図っています。

この取り組みをより推進するため、世界人権宣言、労働における基本的原則および権利に関するILO宣言、グローバルコンパクト等をもとに高砂香料グループ人権方針を作成いたしました。

この人権方針に従い、事業活動の人権への影響を防止・緩和していく「人権デューデリジェンス」の仕組みを構築し、2019年末～ 2020年初めにかけ第1回目を実施しました。その結果、高砂香料グループ全拠点において、人権にかかわる侵害が行われていないことを確認しました。また、このプロセスを通じて企業活動における脆弱性の抽出も行い、ITセキュリティ等改善につなげております。2021 年以降も調査内容をさらに充実させ毎年人権デューデリジェンスを実施してまいります。

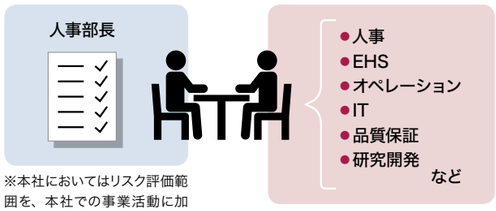
人権デューデリジェンスのプロセス



プロセス	具体的内容
❶スコープの決定・実施の仕組みを構築	高砂香料グループにおける5つのステークホルダーを、人権に関する影響が発生するスコープと設定。 実施するための仕組みづくりとして、経団連「人権デューデリジェンス実行の手引き」をもとにチェックリストを作成、高砂香料グループ全拠点へ目的等も含めた説明を実施。
❷リスク評価	各拠点にてリスク評価を実施。 実施後、各拠点よりチェックリスト・確認書をコーポレート本部に提出。
❸対応策の検討	特定されたリスクの低減のための仕組みを整備、対応策の検討。 （2019年度は人権侵害におけるリスクの抽出は0件のため、同プロセスで抽出されたセキュリティの脆弱性に関して強化を行うこととした）
❹対応策の実施	③で策定した対応策の実施。

リスク評価方法

1 チェックリストに沿い、各拠点にてインタビュー形式にてリスク評価を実施



※本社においてはリスク評価範囲を、本社での事業活動に加え、グローバル機能についても確認を行う

※上記部署は一例です。各拠点の体制によってことなります

2 実施結果を拠点長へ報告。拠点長は確認書にサインをする

3 チェックリスト、確認書を事務局へ提出

特定の拠点においては❶インタビューに加え、関連部署責任者出席のもと、ビデオ会議にて本社とのインタビューを実施

対応策の検討・報告

- 評価結果の分析、必要に応じて面談等を行い追加調査を実施
- 対応策の検討

- 対応策の実施

- リスク評価結果を取締役会に報告

「社会・環境報告書2019」に関するアンケート結果について

当社では、2020年2月から7月までCSRモニターアンケートを実施し、男性214名、女性93名から307件の回答をいただきました。1回答につき、100円を高砂香料グループよりユニセフに寄付いたしました。

http://www.takasago.com/ja/aboutus/sustainability/ehs/pdf/takasago_J_2019.pdf

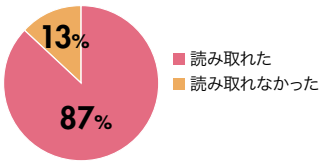
Q1. 高砂香料グループの中期経営計画「One-T」2年目の進捗、および100周年を迎え目指す姿が読み取れましたか?

[読み取れた点・伝わった点等に関する意見]

- サステナブルニーズに対応し再生可能原料や開発を考えている企業。(男性、50代、お客様)
- 香料業界のリーディングカンパニーとして環境保護、地域社会への貢献、そして安全で信頼される製品の安定供給を第一に、グローバルに事業を展開しています。(男性、60代、企業・団体のCSR担当)
- 今期は材料高騰で増収減益であったこと。インドネシア工場が稼働し始めこれからの活動に効果を出すであろうことなど。(男性、60代、株主・投資家)

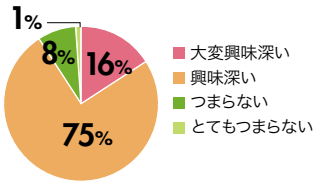
[読み取れなかった点・伝わらなかった点、改善を希望する点等に関する意見]

- 海外企業のグループ化は合理的な方法で理解できます。ただ、自社の社員の教育を含む自社技術の強化策が見えてこない感じがします。(男性、30代、その他(建機メーカーOB))
- CSRって英単語の略を表示してあれば内容がもっとわかりやすいのに。未来に向けた意向だけは良くわかった。(女性、70代以上、お客様)



Q2. 「高砂香料グループの化学物質管理」についてお聞かせください。

- 化学物質管理に特化した特集にここまで多くのページを割いており、とても力を入れていると感じた。(女性、30代、その他(一般市民))
- どの工場もとても積極的に化学物質の管理に取り組んでいることがわかりました。(女性、20代、お客様)
- 各工場のさまざまな取り組みは評価されるが、企業トータルな取り組みが見えない。(男性、60代、NGO・NPOの関係者)
- 社長の人柄かもしれませんが、業績が好調で間もなく100周年を迎え、今後もさらに世界で活躍していこうという内容にもかかわらず、写真が真面目すぎる印象でした。(女性、20代、NGO・NPOの関係者)



Q3. 今後高砂香料グループが取り組むべき項目について

[環境負荷削減]

- 環境負荷削減と顧客の安全衛生は密接にかかわりがあると思うから。(男性、20代、学者・研究者)
- 地球環境を守ることは重要な社会的課題であるから。(男性、50代、お客様)
- いくら技術や生産が良くても環境を破壊していたらダメなので。(女性、50代、お客様)

[環境気候変動]

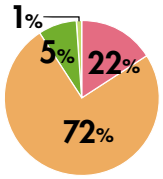
- 今後変わりゆく社会の中で重要視されている課題だから。(女性、10代以下、その他(学生))
- 気候変動を抑えることも重要な社会的課題であるから。(男性、50代、お客様)

[労働安全衛生]

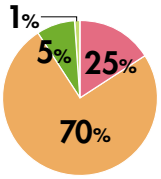
- 良質な製品をつくる上で労働環境の安全衛生は重要なファクターであると思います。(女性、50代、お客様)
- 作業者、関係者の安全が確保されて初めて企業活動が継続できるから。(男性、60代、お客様)
- 働くかたの安全管理は大切です。特に最近はコロナウイルス対策など頑張ってください(女性、60代、お客様)

Q4. 高砂香料グループの活動・取り組みについて

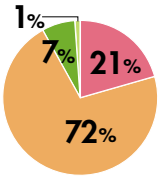
[CSRマネージメントについて]



[社会性報告について]



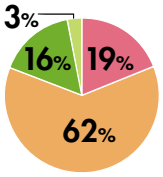
[EHS報告について]



大変評価できる
評価できる
あまり評価できない
評価できない

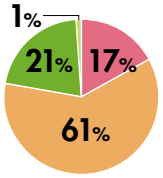
Q5. 報告書について

[わかりやすさ]



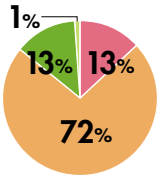
とてもわかりやすい
わかりやすい
ややわかりにくい
わかりにくい

[デザイン(レイアウト、文字の大きさ、イラスト、写真について)]



とても見やすい
見やすい
やや見にくい
見にくい

[情報量]



多い
やや多い
やや少ない
少ない